私のことば

義務教育の教材に

奈良県協会会長
堀内俊夫

オリンピックが東京で開催されてから、国民の体育にたいする関心は高まってきた。知育偏重の教育から体力づくりへ、また歩きましょう運動から家庭における美容体操に至るまで、まことににぎにぎしく喜ばしいことと思います。

さて私は学生時代に陸上競技の選手として、あらゆる運動はひと通りやってきましたが、皮肉なことにハンドボールだけはやったことがありません。それが前会長村井繁昌氏、現理事長森田正英氏とのスポーツ界での関係上、会長に推され、つとめさせてもらっています。毎年の国体には選手諸君といっしょに出かけ応援しているわけですが、こんなにおもしろい競技はない。年中できるし、場所もとらない。全身の運動になる。男女を問わず楽しめる。このハンドボールもぜひ普及させねばと考えます。

まず第一に義務教育諸学校の体育の教材に入れてもらいたい。ドッチボールのようにすぐ親しめると思う。ハンドボールの機敏さ、確実性、協調性など義務教育の子弟にプラスされる要素は多いと思います。第二にオリンピック種目になった。現在、日本協会はより積極的に行動し、他の種目を追い越すように一層の努力を願いたい。

過日、山の中の小さな中学校で女子生徒たちさえ、ファイトいっぱいに運動している姿を見て、やがて次代の妻や母がどんなにか伸び伸びした姿勢で家庭を切り回し、健康で、すなおな家庭を築くだろうことかと、ほほえましく思いました。恵まれた栄養、スポーツで鍛えた体格、格調高い知性で、明かるく底力のある日本が築かれることを念じたい。

話は前後しましたが、日本協会はハンドボールを中学校の体育指導要領に復活させるように努力を続けていることを私は知っています。近い将来に復活したなら、日本の児童・生徒の体力というものは急速に伸びると確信しています。その日が一日も早く訪れることは大いに期待しています。

私は奈良県天理市長をしていますが、ごく最近に南米チリのラ・セレナ市と姉妹都市を結びました。近くチリをはじめ南米北米などの訪問の旅に出発しますが、地方行政のほか私の出身としての教育界、体育界も視察し、体育の発展にも寄与したいと思っています。

ハンドボール「第40号目次」

昭和42年1・2月合併号

〔表紙写真〕 第13回全日本選抜選手権大会女子決勝リーグの大崎電気対田村紡戦、早川（大崎）のシュートを田村ディフェンスとめる。

41年の10大ニュース

1位は中国チーム来日

高嶋理事長辞任が4位

本誌編集部は昭和41年（1月—12月）に起きたハンドボール界の10大ニュースを次のように選び出した。国際的な話題が多く、第1位は中国ナショナルチームの来日、第2位は日本ナショナルチームの編成とミュンヘン・オリンピック第一次強化選手の発表、第3位はミュンヘン・オリンピックは男子7人制の採用が上位を占めた。国内では日本協会高嶋理事長の辞任があり、連日スポーツ紙をにぎわせた。

①中国ナショナルチーム来日、日本側1勝にとどまる（9月）

男子7人制統一後、初めての外国ナショナルチームとして中国選抜チームが9月15日に来日、各地で9試合を行なった。日本側は第1戦(横浜・9月17日)で芝浦工大が見事な反撃で逆転勝ちし、さいさきよい1勝をあげたが、その後は中国のたくましい体力に圧倒され8連敗。結局、1勝8敗の成績となった。最終戦(東京・10月2日)は10年ぶりに全日本チームが出場したが大接戦のすえ惜敗した。

これで一昨年の全日本の訪中成績と合わせて、日本は中国に2勝16敗、ナショナルゲームは4連敗した。

②ナショナルチームとミュンヘン五輪第一次強化選手の発表（9月）

かねてから実現を期待されていたナショナルチームが初めて編成され、その名簿を日本協会が発表した。41年度は男子だけで、早ければ来年から女子も加えられる予定。日本協会は41年度のナショナルチーム・メンバーを同時に、ミュンヘン・オリンピックの第一次強化選手とすることも決めている。

ナショナルチームのなかから、10月の対中国戦の全日本メンバーと42年1月の第6回世界男子7人制選手権の遠征メンバーが選出された。

③ミュンヘン・オリンピック、男子は7人制(室内)女子の開催も考慮（9月）

昨年9月コペンハーゲンで開かれた国際ハンドボール連盟（IHF）総会で、1972年ミュンヘン（西ドイツ）で開かれるオリンピックのハンドボール競技は男子7人制（室内）で開くことを決めた。また同大会で女子（7人制室内）も実施するよう運動方針を決め、具体的な活動にはいることとなった。

④高嶋理事長辞任、常務理事会の合議制（12月）

高嶋日本協会理事長は渡辺東京都会長の高嶋理事長の不信任案提出と、日本協会常務理事会の大半が理事長を信任しないため退陣、12月17日の臨時全国理事会で承認された。このため日本協会は会長、理事長空席のまま越年し、2月26日の定例全国評議員会まで常務理事会の合議制で協会の運営に当たることになった。

⑤全立大（男）大崎電気（女子）全日本のダブルタイトル獲得（8月、12月）

全立大は現役にOBの江名を加え、全日本総合選手権（浦和）準決勝で大崎電気を24—8、決勝で芝浦工大を21—14で破って初優勝した。全日本選抜選手権（東京）の決勝リーグでも大崎電気と12—12の引き分け、芝浦工大を20—14で破って2度目の優勝をとげ、男子のナンバーワン・チームとなった。女子の大崎電気も全日本総合選手権準決勝で田村紡を8—6、決勝で大洋デパートを12—4で破って2度目の優勝、全日本選抜選手権(リーグ戦)で田村紡を8—4で破り、5戦全勝して2度目の優勝を飾り、女子のナンバーワン・チームとなった。

⑥芝浦工大、全日本学生選手権に3連勝（7月）

5年ぶりに大阪で開かれた全日本学生選手権は芝浦工大（関東）が決勝で立大（関東）を破り、3年連続8回目の優勝を飾った。しかし芝浦工大は今シーズン学生界のタイトルはこの一つを得たにとどまった。

⑦立大、同大の大活躍

立大の春秋連覇は昭和26年いらい15年ぶり。秋の優勝は芝浦工大の9連勝をはばんでのものだけにその喜びもひとしお。立大は余勢を駆って同大を降し、初の全日本学生王座についた。

同志社大は昨秋から通算関西学生リーグに21連勝、昭和39年に次いで2度目の春秋連覇を遂げた。通算の優勝回数はこれで11回となり、最近5年間10シーズンのうち7回首位となり「同志社大黄金期」を示している。

⑧明星高2大タイトル、女子高は東北勢の進出目だつ（8月）

明星高（東京）は8月の全国高校、10月の第21回国体に優勝し、2大タイトルを獲得した。これは史上10回。桜台高（愛知＝7回）足利高（栃木）中京商高（愛知）に次いで4校目の偉業。女子は秋田和洋女高が全国高校選手権で同じ東北の花巻南高（岩手）と顔を合わせてタイトルを争い、5―4と1点差で花巻南を押えて初優勝した。東北チームの進出はめざましいものがあった。

⑨実業団チームの増加と、ブロック実連の結成

増加の一途をたどる実業団チームが各地で連盟組織を確立。山口、大阪、愛知、茨城、神奈川などでリーグ戦など活発な対抗試合が開れている。さらに発展して関東地区でブロック実業団連盟が発足。学連組織が15～20年近い年月を積み重ねたすえ、現在の形態にこぎつけたのにたいし、実業団球界のこの飛躍は驚異的ともいえる。

チーム数は本誌36号（41年3月現在）によれば男子53、女子13とされているが、男子はすでに百チームに近い数字を示しているとみられる。

⑩大阪イーグルの活躍

全日本教職員選手権5連勝（8月）国体教員3回目の優勝（10月）2年連続全日本総合ベスト4進出（8月）。とくに全日本総合、全日本選抜などでの活躍は「教員球界」を認識させ、確立させたものとして記憶されねばなるまい。

混成チームの悪条件を克服しているのはメンバーの勢意にほかならない。教員界ではほかにスワロー兵庫、岐阜教員、山口教員、熊本職員などがチームとしての伝統を築きあげて、今後の活躍が注目される。

次点（順不同）

▽学生界で日体大(女子)の連勝続く ▽日本女子リーグ（仮称）開催案まとまらず ▽明大、関東学生2部に転落 ▽41年度予算の大型化

ハンドボールまんが（1）
画・安達忠良

中国遠征と西独招待

高嶋理事長辞任に伴う緊急全国理事会は12月17日東京・岸記念体育会館で開かれ、常務理事会の決定どおり高嶋氏の辞任を承認した。また42年度の国際交流事業として、男女選抜チームの中国遠征を4月または5月に、西ドイツの男女選抜チームの招待を9月に実施することを申し合わせた。

2月26日に全国評議員会

日本ハンドボール協会は2月26日、東京・代々木の岸記念体育会館で定例全国評議員会を開く。この評議員会で新しい会長を選任するが、新理事長については現在の情勢がなお流動的なので見通しはむずかしい。理事長を置かずに新常務理事の合議制で当分の間、協会を運営していく観測も出ている。このほか新理事25人を選出、昭和42年度の行事日程が決まる。

〔注〕現在、会長候補には数人の候補者が上がっているが、近く会長選考委員会のメンバーが会長候補者に個別折衝して全国評議員会までに決める手はずになっている。なお42年度の全日本学生選手権大会の開催地は東京都に内定している。

高嶋理事長が辞任
当分の間、常務理事の合議制

日本協会の高嶋冽理事長は昨年12月3日の緊急常務理事会の席上辞意を表明した。同常務理事会は8日の会議でこれを了承、次いで17日開かれた全国理事会で正式にこれを承認した。当分の間、理事長を置かず、常務理事会の合議制でいくことを確認した。

辞任の理由は①東京都協会との関係・実業団の問題等についての解決ができなかった。②日本協会常務理事会の大半から、辞任を強く迫られた―ことによるものである。

第6回男子7人制ハンドボール世界選手権大会

チェコスロバキアが初優勝

日本、ノルウェーに再び勝ち10位

42年1月・スウェーデン

第6回男子7人制ハンドボール世界選手権大会は、1月12日から21日までスウェーデンの各都市で開かれた。参加国は前回優勝のルーマニアをはじめ地元開催国のスウェーデン、日本など16カ国、4チームずつの4ブロックに分けて第一次リーグ戦を行なった。日本はB組から出場。第1戦（12日）のハンガリー戦で日本は飯端寿昭選手（関学）らの活躍で前半14―16とわずか2点リードされただけの善戦をした。後半、日本の追撃に広い会場をわかせたが、25―30と5点差で第1戦を失った。第2戦（13日）の西ドイツ戦でも日本は大いに健闘したが、ハンドボール王国の〃西ドイツ〃の厚い壁を破れず、27―38で敗れた。この結果、日本は2戦2敗して準々決勝進出への望みを断った。最終戦（15日）のノルウェー戦は速攻を展開して前半11―7とリードし、後半も対等に試合を進めて貴重な1勝をあげた。これで日本は前回に引き続きノルウェーに2連勝、B組の第3位、参加16カ国のうち10位となった。世界選手権大会における日本の通算成績は2勝6敗。チェコスロバキアが初優勝した。

ユーゴ、スウェーデンに勝つ

◇A組

スウェーデン 26（17―9、9―7）16 ポーランド
ユーゴ 26（10―8、16―3）11 スイス
スウェーデン 19（9―8、10―8）16 スイス
ユーゴ 22（8―9、14―8）17 ポーランド
ユーゴ 21（13―8、8―9）17 スウェーデン
ポーランド 20（8―7、12―11）18 スイス

日本、ハンガリーに善戦

◇B組

西ドイツ 22（10―7、12―9）16 ノルウェー
ハンガリー 30（14―11、16―14）25 日本

飯端寿昭選手（関学）はこの試合で、この日最高の12点をあげた。

日本、健闘及ばす

ハンガリー 15（8―4、7―7）11 ノルウェー
西ドイツ 38（21―15、17―12）27 日本

日本の飯端寿昭選手（関学）はこの日も6点をあげ、二日間で18点という全チームを通じての最高ポイントゲッターとなっている。二位は西ドイツのルブキング選手の16点、三位は木野実選手（立大）など三選手の14点となっている。（AP＝共同）

日本1勝あげる

西ドイツ 29（12―10、17―13）23 ハンガリー
日本 21（10―10、11―7）17 ノルウェー

（注）日本は第5回大会でノルウェーに18―14で勝っている。

東ドイツ、金星逸す

◇C組

ルーマニア 14（7―7、7―7）14 東ドイツ 引き分け
ソ連 28（11―4、17―4）8 カナダ
ソ連 22（10―9、12―8）17 東ドイツ
ルーマニア 27（18―2、9―1）3 カナダ
ルーマニア 15（8―4、7―9）13 ソ連
東ドイツ 37（17―3、20―3）6 カナダ

チェコ圧勝す

◇D組

A組	ユーゴ	スウェーデン	ポーランド	スイス	勝	負	分	得点	失点
1 ユーゴ	×	○	○	○	3	0	0	69	45
2 スウェーデン	●	×	○	○	2	1	0	62	53
3 ポーランド	●	●	×	○	1	2	0	53	66
4 スイス	●	●	●	×	0	3	0	45	55

B組	西ドイツ	ハンガリー	日本	ノルウェー	勝	負	分	得点	失点
1 西ドイツ	×	○	○	○	3	0	0	89	66
2 ハンガリー	●	×	○	○	2	1	0	68	65
3 日本	●	●	×	○	1	2	0	73	85
4 ノルウェー	●	●	●	×	0	3	0	44	58

C組	ルーマニア	ソ連	東ドイツ	カナダ	勝	負	分	得点	失点
1 ルーマニア	×	○	△	○	2	0	1	56	30
2 ソ連	●	×	○	○	2	1	0	63	40
3 東ドイツ	△	●	×	○	1	1	1	68	42
4 カナダ	●	●	●	×	0	3	0	17	92

D組	チェコ	デンマーク	フランス	チュニジア	勝	負	分	得点	失点
1 チェコ	×	○	○	○	3	0	0	72	34
2 デンマーク	●	×	○	○	2	1	0	50	38
3 フランス	●	●	×	○	1	2	0	34	31
4 チュニジア	●	●	●	×	0	3	0	23	66

チェコ 25（11-8、14-2）10 フランス
デンマーク 27（11-2、16-4）6 チュニジア
デンマーク 9（7-5、2-3）8 フランス
チェコ 23（10-6、13-4）10 チュニジア
チェコ 24（11-7、13-7）14 デンマーク
フランス 16（9-3、7-4）7 チュニジア

ルーマニア辛勝

◇準々決勝
ソ 連 19（9-9、10-7）16 西ドイツ
デンマーク 14（8-8、6-5）13 ユーゴ
ルーマニア 20（7-7、13-12）19 ハンガリー
チェコ 18（9-8、9-3）11 スウェーデン
▽5—8位決定一回戦
スウェーデン 21（11-8、10-11）19 ハンガリー

日本人も大きくなったね!!
画・安達忠良

西ドイツ 31（17-18、14-12）30 ユーゴ
AP電によると「西ドイツ対ユーゴ戦は1時間20分にわたるドラマチックな試合を展開した」と報じているので、延長戦になったものとみていい。
▽5—6位決定戦
スウェーデン 24（12-12、12-10）22 西ドイツ
▽7—8位決定戦
ユーゴ 記録不明 ハンガリー
▽準決勝
チェコ 19（8-7、11-10）17 ルーマニア
デンマーク 17（8-4、9-8）12 ソ 連

ルーマニアは3位

▽3位決定戦
ルーマニア 21（13-8、8-11）19 ソ 連
この試合も延長戦になったと、外電は伝えている。

デンマーク善戦

▽決 勝
チェコ 14（8-8、6-3）11 デンマーク
（得点）**チェコ**＝マレシュ2点、デュダ3点、ブルナ4点、コネチニー4点、ハルビク1点。**スウェーデン**＝クリスチャンセン4点、ガールド2点、H・カールド2点、カーエ1点、ルンド1点、スベンドセン1点。

日本、長足の進歩
次回の大躍進を期待

（あとがき）日本チームは過去二回（第4回。第5回）の参加のときに比べ、攻守両面にわたって長足の進歩をとげた。とくに第5回大会の得点40に比べ今回は73と約2倍にふえ、失点も90点から85点と減っている。これは日本協会が初めてナショナルチームを編成したよい結果の現われである。

ただ心配された点は、GKの尾形を除いて全員が初の世界選手権の経験ということだったが、その心配も、1勝2敗の試合内容から見て解消したといっていい。とくにロングシューターの木野（立大）飯端（関学）の活躍は大いに光っていた。ただノルウェー戦でGK尾形が右足首をねんざしたのは気の毒だった。今度の結果からみて、次回の大躍進が期待される。（外電から）

	順　位
優勝	チェコ
2位	デンマーク
3位	ルーマニア
4位	ソ　連
5位	スウェーデン
6位	西ドイツ
7位	ユーゴ
8位	ハンガリー
9位	東ドイツ（1勝1敗1分け）
10位	日　本（1勝2敗）
	フランス
	ポーランド
13位	カナダ（0勝3敗）
	スイス
	チュニジア
	ノルウェー

優勝チーム	
第 1 回	西ドイツ
第 2 回	スウェーデン
第 3 回	スウェーデン
第 4 回	ルーマニア
第 5 回	ルーマニア
第 6 回	チェコ

国際試合記録
（12月中旬—1月上旬）

ルーマニア 34—9 日本
ルーマニア 19—10 スイス
ルーマニア 16—14 西ドイツ
ルーマニア 14—14 チェコ（引き分け）
ルーマニア 15—11 チェコ
ルーマニア 17—17 ユーゴ（引き分け）
ルーマニア 18—11 ソ連
西ドイツ 11—4 フランス
ソ　連 20—12 ノルウェー
チェコ 13—4 ババロイズ選抜
チェコ 16—9 オーストリア
ババロイズ選抜 14—10 オーストリア
ノルウェー 15—4 カナダ
ソ　連 24—18 デンマーク
フランス 13—11 スイス
ルーマニア 19—10 スイス
西ドイツ 30—17 スイス
フランスB 24—14 スイスB
フランスA 25—10 プラハ選抜
チェコ 19—7 スイス
チェコ 27—11 スイス
西ドイツ 31—12 スイス
フランスB 22—14 スイスB
デンマーク 16—13 スウェーデン
スウェーデン 22—13 デンマーク

日本敗れる
親善試合で

日本チームは1月17日ストックホルクで地元選抜チームと対戦、23—24で敗れた。この試合で木野が10点、飯端が7点をあげた。
ストックホルム 24（18-10、6-13）23 日　本

☆　☆　☆

第13回NHK杯全日本選抜ハンドボール選手権大会

全立大、2度目の栄冠飾る

女子は大崎電気が3年ぶり

41年12月21日～25日・東京

第13回全日本選抜ハンドボール選手権大会は12月21日から25日までの5日間、東京体育館に日本協会の推薦を受けたトップチーム男子8、女子6チームが参加して開かれた。男子は準決勝リーグのあと、その成績を生かしたベスト4による決勝リーグの世界選手権方式が採られ、最終日に無敗同士の全立大と芝浦工大（ともに東京）が対決、全立大が前半好調に攻めて勝ち、2年ぶり2回目の優勝を飾った。女子は予想どおり大崎電気（埼玉）と田村紡（三重）の実業団によって優勝が争われ、大崎が田村紡の3連勝をはばみ、3年ぶり2回目の栄冠を獲得した。

全立大、大崎と引き分け

男子決勝リーグ

芝浦工大 17（9－8, 8－6）14 関大

【芝浦】	得		【関大】	得
大石	0	GK	平松	0
山村	0	GK	西口	0
近藤	4	FP	多賀谷	3
岩崎	1	FP	馬着	3
関根	3	FP	長野	3
片山	0	FP	加古	2
山田	7	FP	宮永	2
近森	2	FP	松田	0
竹内	0	FP	窪崎	1
小林	0	FP	小川	0
白神	0	FP	武田	0
17	(0)	7MT	(0)	14

〔評〕関西学生界から参加した3チームのうち、若手中心の同大、関学が期待はずれに終わったのに比べ、関大のバランスのとれた攻守は光った。この試合でも、芝工大の甘い攻守をよくついて前半25分4－8から連続得点、1点差に追い上げる気力をみせ後半は3分長野、5分窪崎の好プレーで10－9と逆転あざやかな試合ぶりだった。

守っても近森をよくマーク、芝工大の攻撃テンポを狂わせ波乱が期待された。しかし奮起した芝工大は、後半10分から近森をあきらめて山田を軸にしたコンビネーションプレーを多用、5分間に5点をあげる速攻で、ようやく試合のペースを握ることができた。関大は、後半逆転したあと、攻撃が消極的になり、これが芝工大に立ち直るチャンスを与えてしまったのは惜しい。（杉山茂）

全立大 12（5－7, 7－5）12 大崎電気（引き分け）

【全立大】	得		【大崎】	得
尾形	0	GK	福本	0
木野	6	FP	金田	0
東	1	FP	北村	1
北井	0	FP	井上	6
北村	2	FP	小谷内	0
野田	1	FP	西村	2
藤城	0	FP	竹野	3
小野口	0	FP	坂野	0
江名	2	FP	宮田	0
倉前	0	FP	福田	0
12	(2)	7MT	(0)	12

〔評〕前半は完全に大崎のペース。ただ一人のOBで、世界選手権代表選手である名手江名をベンチに温存して余裕をみせる全立大は、開始5分に長身の東がジャンプ・シュートして先取点をあげた。しかし大崎は速攻で西村がノーマークシュートを決め、たちまちタイに持ち込み、このあと大崎が押し気味に試合を進めた。

世界選手権代表選手4人をそろえる全立大だが、大崎のうまいディフェンスとカットプレーに攻撃が思うようにいかない。前半を7－5とリードした大崎は後半にはいっても攻勢。井上がカンのいい動きをみせ、10－7と3点差をつけたが、ここで全立大は江名を起用し、チームを立て直すとがぜん反撃に出た。

13分には木野が速攻から、18分には北村が遅攻からシュートを決め、21分に7MTを成功させてまたたく間に10－10を同点に追いついた。しかし大崎はこの日のシュートの当たり屋の井上が後半四つ目のシュートで再びリードを奪うと逃げ込み策に出た。全立大陣内でパスを回して時間をかせいだが、ここでもっと積極的に攻めるべきだった。

大崎のパスミスから全立大は28分7MTでまたもタイにし、29分には江名が左サイドからフェイント気味にシュートし一気に12－11とリードを奪った。あと1分。全立大の〝あざやかな逆転劇〟かと思われたが、大崎はタイムアップ寸前、速攻から竹野が飛び込むようにしてシュートし、結局12－12で引き分けた。（日刊スポーツから）

大崎電気 20（9－6, 11－6）12 関大

〔評〕関大は立ち上がりから積極的に攻め、5分には3－1とリードする好調さだったが、大崎

〈74〉

決勝リーグ（男）

	立大	芝浦	大崎	関大	勝数	負数	分け	得点	失点
①全立大	×	○	△	○	2	0	1	49	34
②芝浦工大	●	×	○	○	2	1	0	50	51
③大崎電気	△	●	×	○	1	1	1	49	43
④関大	●	●	●	×	0	3	0	34	54

【大崎】	得		【関大】	得
福本	0	GK	平松	0
下里	0	GK	西口	0
金田	1	FP	馬着	1
北村	3	FP	多賀谷	3
井上	6	FP	長野	1
小谷内	1	FP	加古	2
西村	0	FP	宮永	3
竹野	2	FP	松田	1
坂野	3	FP	小川	0
小谷内	1	FP	武田	0
福田	3	FP	窪崎	1
20	(2)	7MT	(0)	12

あわてずマイペース。前半18分福田のゴールで逆転し、その後はがっちり試合の主導権を握ってしまった。大崎はベテランの技と若手の力をうまくミックスさせ、いかにも実業団チャンピオンらしいチームプレーをみせたが、再び全日本タイトルを獲得するには若手の伸びが大きく望まれよう。（杉山茂）

木野の鉄腕、9点

全立大 20（13―5 / 7―9）14 芝浦工大

【立教】	得		【芝浦】	得
尾形	0	GK	山村	0
		GK	大石	0
木野	9	FP	近藤	2
東	4	FP	岩崎	2
北井	2	FP	関根	1
北村	3	FP	片山	0
野田	2	FP	山田	2
藤城	0	FP	近森	3
小野口	0	FP	竹内	1
江名	0	FP	小林	3
倉前	0	FP	白神	0
20	(0)	7MT		14

〔評〕　試合前立大・勝監督と芝工大・中沢監督は女子決勝を見ながら雑談をしていた。〝余裕〟というよりも、互いに手のうちを知り尽くし、いまさら秘策を立てることもなかったのだろう。しかも、両チームの主力（ともに4人ずつ）は新春の世界選手権代表選手だ。

そんなムードが試合にも反映したのか、無敗同士の決勝にしては大あじな展開であった。いつになく全立大が早いテンポで仕掛けたのが、作戦といえばいえたが、これはむしろ芝工大ディフェンスの低調を責めるべきだろう。コートいっぱいを使った全立大得意のローリング・オフェンスに対して、芝工大はあまりにも消極的であった。そればかりかディフェンス・ラインがさがり気味で、やすやすと木野のロングシュートやミドルシュート許していたのはうなずけない。

全立大攻撃の明と、芝工大守備の暗は10分早くも6―1というスコアになって現われ、この〝5点差〟が最後まで芝工大の上に重くのしかかった。それにしても全立大の前半は、おもしろいようにシュートが決まった。なかには強引とも思える攻撃もみられたが、それがすべて得点に結びついた。勝つときは、こういうものなのだろう。

芝工大の最初の反撃は後半開始早々にみられた。小林、関根らのポストプレーが決まり、10分には9―14とし攻撃にテンポが出た。しかし12分野田のノーマークシュートをGKがいったん止めながらこぼし、ゴールとする運・不運を境に全立大の攻守が立ち直った。そして全立大は15分、ゲームメーカーとしてベテラン江名を戦列に送り、芝工大の追撃の芽を押えにかかった。後半23分18―10と大差がついたあと芝工大2回目の反撃があり、再び5点差（13―18）まで追いあげた。全立大は当たり屋木野が、この試合をしめくくるように28分、29分と連続シュートを決め芝工大を振り切った。

関東学生の春秋、全日本総合（8月）と今シーズン立教勢に負い目の芝工大としては、先制から試合のペースを早めに握ることが勝機と予想されたが、逆に全立大の速攻にあって前半で大きく差をつけられたのが完敗の因。後半はむしろ押し気味で「芝工大攻撃」のよい面が発揮されただけに、よけい立ちあがりの失敗があきらめられまい。

全立大はこれで今シーズン二つの全日本タイトルを獲得、立大としても全日本学生王座、関東学生春・秋を得て、その翼下に5大タイトルをおさめたわけだが、攻撃は木野、守備に尾形と要（かなめ）に国際級選手を持っていたことと、両者の持ち味を生かした他のプレーヤーのアシストぶりが栄光の最大因といえる。また、巧者江名を試合のヤマ場を見きわめて登場させたベンチワークのうまさも見のがせない。（杉山茂）

成績を生かす）

芝浦工大　19―17　大崎電気
全立大　17―8　関　大
（以上2試合は準決勝リーグの

【写真説明】全立大対芝浦工大戦。全立大の東のシュート。

男子準決勝リーグ

ことしから予選リーグの名が改められ、参加8チームを2組に分けて準決勝リーグに進出、同一チームの対戦成績はそのまま生かされることになった。

▽A組　芝浦工大（東京、全日本学生選手権優勝）大崎電気（埼玉、国体優勝）同志社大（京都、全日本学生3位、関西学生春秋優勝）岐阜教員ク（岐阜、全日本教職員2位、国体教職員2位）

大崎電気 31（16－5、15－4）9 岐阜教員

得	【岐阜】		【大崎】	得
0	鈴木	GK	福本	0
0	大平	GK	下里	0
2	石榑	FP	金田	2
1	森川	FP	北村	1
2	杉本	FP	井上	3
1	豊島	FP	小谷内	6
0	羽上田	FP	西村	6
0	高島	FP	竹野	3
1	犬飼	FP	宮田	4
2	尾藤	FP	加藤	4
0	大洞	FP	福田	2
9	（0）	7MT	（0）	31

芝浦工大 20（11－6、9－5）11 同志社大

得	【同大】		【芝浦】	得
0	和保	GK	山村	0
		GK	大石	0
3	飯田	FP	近藤	6
1	佐藤	FP	岩崎	1
0	守本	FP	関根	3
1	稲葉	FP	片山	0
0	藁品	FP	山田	7
3	松浦	FP	近森	1
0	高橋	FP	竹内	2
0	町田	FP	小林	0
3	舟木	FP	白神	0
11	（1）	7MT	（2）	20

大崎電気 27（15－10、12－6）16 同志社大

得	【同大】		【大崎】	得
0	和保	GK	福本	0
		GK	下里	0
2	飯田	FP	金田	1
1	佐藤	FP	北村	4
2	守本	FP	井上	8
0	稲葉	FP	小谷内	1
0	藁品	FP	西村	3
0	松浦	FP	竹野	4
3	高橋	FP	宮田	2
1	光田	FP	加藤	3
7	舟木	FP	福田	1
16	（0）	7MT	（0）	27

芝浦工大 32（15－4、17－4）8 岐阜教員

得	【岐阜】		【芝浦】	得
0	鈴木	GK	大石	0
		GK	山村	0
3	石榑	FP	近藤	4
0	森川	FP	岩崎	3
1	杉本	FP	関根	0
2	豊島	FP	片山	5
1	羽上田	FP	山田	4
0	尾藤	FP	近森	7
1	犬飼	FP	竹内	5
0	吉田	FP	小林	4
0	衣斐	FP	白神	0
8	（1）	7MT	（0）	32

同志社大 21（13－10、8－7）17 岐阜教員

得	【岐阜】		【同大】	得
0	鈴木	GK	和保	0
6	石榑	FP	飯田	8
3	森川	FP	佐藤	0
6	杉本	FP	守本	6
0	豊島	FP	稲葉	0
2	羽上田	FP	藁品	2
0	高島	FP	松浦	1
0	大洞	FP	大羽	0
0	吉田	FP	二橋	0
0	衣斐	FP	舟木	4
17		7MT	（1）	21

芝浦工大 19（6－10、13－7）17 大崎電気

得	【大崎】		【芝浦】	得
0	福本	GK	山村	0
0	下里	GK	大石	0
3	金田	FP	近藤	4
6	北村	FP	岩崎	1
1	井上	FP	関根	4
0	小谷内	FP	片山	0
2	西村	FP	山田	1
4	竹野	FP	近森	5
0	坂野	FP	竹内	1
0	宮田	FP	小林	3
1	福田	FP	白神	0
17	（2）	7MT	（0）	19

〔評〕　優勝争いに響く一戦。前半芝浦工大は速攻がよく決まり、10分には7－2と差をつけた。この立ち上がりの明暗は実力伯仲。〝決定的〟かと思われたが、後半にみせた大崎の反撃はあざやかだった。11分11－14と反撃の足場を固めたあと11分、13分、そして15分竹野のゲットで14－14と追いついた。

そのあとは一進一退。速攻の応酬で見ごたえのあるゲームとなったが、急追に疲れが見え始め、芝浦工大は25分速攻から近藤がゴールして18－17。さらに28分には小林がインターセプトからダメ押し点をあげて勝負を決めた。大崎にとっては序盤の拙戦がくやまれよう。スピード感にあふれ、今シーズン屈指の好試合だった。

【A組順位】　①芝浦工大3戦全勝②大崎電気2勝1敗③同大1勝2敗④岐阜教員ク3敗

全立大、抜群のチーム力

▽B組　全立大（東京、全日本総合優勝）大阪イーグルス（大阪、全日本教職員優勝、国体教職員優勝）関大（大阪、関西学生秋季2位）関学（兵庫、関西学生春季2位）

関　大 19（11－8、8－6）14 大阪イーグルス

得	【大阪】		【関大】	得
0	島崎	GK	平松	0
0	光島	GK	西口	0
1	松尾	FP	多賀谷	4
2	山崎	FP	馬着	3
0	奥浜	FP	長野	3
0	東	FP	加古	1
3	井上	FP	宮永	8
5	青木	FP	松田	0
3	北岡	FP	小川	0
0	加藤	FP	武田	0
		FP	西脇	0
14	（3）	7MT	（3）	19

全立大 35（21－5、14－4）9 関学

得	【関学】		【立教】	得
0	松田	GK	尾形	0
0	末瀬	GK	川口	0
1	森口	FP	木野	7
4	飯端	FP	東	6
1	永井	FP	北井	2
3	西野	FP	北村	6
0	喜田	FP	野田	3
0	辻本	FP	藤城	4
0	大本	FP	小野口	3
0	真砂	FP	江名	3
0	細井	FP	倉前	1
9	（1）	7MT	（0）	35

大阪イーグルス 16（6－8、10－8）16 関学

得	【関学】		【大阪】	得
0	松田	GK	光島	0
0	末瀬	GK	島崎	1
1	森口	FP	松尾	0
7	飯端	FP	山崎	1
3	永井	FP	奥浜	0
3	西野	FP	東	1
1	喜田	FP	井上	3
0	辻本	FP	青木	7
0	大本	FP	北岡	0
1	真砂	FP	加藤	3
0	細井	FP		
16	（0）	7MT	（2）	16

全立大 17（7－5、10－3）8 関大

得	【関大】		【立教】	得
0	西口	GK	尾形	0
0	平松	GK		
1	多賀谷	FP	木野	6
0	馬着	FP	東	3
1	長野	FP	北井	0
3	加古	FP	北村	3
2	宮永	FP	野田	0
1	松田	FP	藤城	2
0	小川	FP	小野口	2
0	武田	FP	江名	1
0	西脇	FP	倉前	0
8	（0）	7MT	（0）	17

〔評〕　全立大ははコートいっぱいにあざやかなパスプレーをみせ、関大ディフェンスがくずれたとみるや木野、東、北村らが多彩なシュートを決めた。関大はイーグルス戦（前日）で見せたような動きがなく、先制の期待も、逆に全立大に前半12分で7－0とされてしまった。後半、加古を中心によく守り、互角の戦況だっただけに、関大としては前半ずるずる失点を重ねたのが最後までたたった。

関　大 17（10－5、7－8）13 関学

得	【関学】		【関大】	得
0	松田	GK	平松	0
0	末瀬	GK	西口	0
0	森口	FP	多賀谷	2
4	飯端	FP	馬着	1
1	永井	FP	長野	2
4	西野	FP	加古	2
2	喜田	FP	宮永	8
2	辻本	FP	松田	2
0	大本	FP	小川	0
0	真砂	FP	武田	0
0	細井	FP	西脇	0
13	（0）	7MT	（3）	17

全立大 22（14－6、8－7）13 大阪イーグルス

得	【大阪】		【立教】	得
0	島崎	GK	尾形	0
0	松尾	FP	木野	8
0	山崎	FP	東	2
0	奥浜	FP	北井	0
1	東	FP	北村	5
2	井上	FP	野田	3
8	青木	FP	藤城	2
1	北岡	FP	小野口	1
1	加藤	FP	江名	1
		FP	倉前	0
13	（2）	7MT	（1）	22

【B組順位】　①全立大3戦全勝②関大2勝1敗③大阪イーグルス・関学2敗1分け

チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

営業三課／栗田満夫

パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。
超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。

営業一課／庄司政雄

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。よい製品をつくる励みになります。

営業三課／打林行夫

本社新社屋

新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本社	東京都千代田区神田猿楽町1－4	TEL 東京(292) 2011（代）～8
横浜支社	横浜市西区高島通り1－7	TEL神奈川(045) 44－6572・7358・7028
福岡支社	福岡市御供所町3番16号（聖福寺前）	TEL 福岡（28）3960・0153
立川工場	東京都昭島市東町1丁目1番地5号	TEL 立川(0425) 2－2470・4383
九州工場	佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）	TEL 牛津 72

横浜支社

田村紡、3連勝の夢破れる

日体大、3位に食い込む

女子決勝リーグ

大洋デパート（熊本）愛知紡（愛知）の実業団2強が勤務の関係で不出場、第1日から実業団4、学生2の6チームによる決勝リーグ戦となった。

田村紡 20（14－1 6－5）6 東京女体大

得	【東女】		【田村】	得
0	千明	GK	渡辺美	0
0	岡本	FP	種村	3
2	山地		渡辺好	3
0	熊谷		水谷	2
1	浅見		小林	1
1	川端		内藤	3
2	沖野谷		清水	7
0	吉沢		甲村	0
0	矢井		渡辺信	0
0	大竹		若林	1
0	藤森		大浦	0

6（0）7MT（0）20

決勝リーグ（女）

	大崎	田村	日体	三菱	重機	東女	勝ち	負け	分け	得点	失点
①大崎電気	×	○	○	○	○	○	5	0	0	47	16
②田村紡	●	×	○	○	○	○	4	1	0	69	36
③日体大	●	●	×	○	○	○	3	2	0	35	40
④三菱鉛筆	●	●	●	×	○	○	2	3	0	27	31
⑤東京重機	●	●	●	●	×	○	1	4	0	44	58
⑥東女体大	●	●	●	●	●	×	0	5	0	24	65

大崎電気 5（3－1 2－1）2 三菱鉛筆

得	【三菱】		【大崎】	得
0	吉田	GK	古谷	0
			川崎	0
0	三井田	FP	笠原	0
0	鈴木		早川	1
1	佐々木房		宇井	0
0	落合		黒川	0
0	佐々木洋		鈴木	3
0	藤盛		加藤	0
0	遠藤		堀	1
1	江川		小林	0
0	蓮見		木幡	0

2（0）7MT（0）5

〔評〕3週間前の東京選手権決勝は5－4で三菱が勝っている。大崎はこの日も前半走りの不足からパスミスが目だち、わずかに鈴木の個人技で2点のリードを奪っただけ。しかも後半15分には江川に7MTを決められ3－2と1点差に追いあげられるなど苦しみの連続だつた。（読売新聞から）

日体大 10（3－4 7－4）8 東京重機

得	【重機】		【日体】	得
0	高野	GK	明神	0
			小野里	0
4	斎藤	FP	田井	0
1	山崎		北村	1
1	西山口		北口	3
2	鷲谷		津田	5
0	畑岡		原	0
0	飯田		川口	1
0	山本		小野塚	0
			隈	0
			綱川	0

8（2）7MT（3）10

日体大 7（4－2 3－2）4 三菱鉛筆

得	【三菱】		【日体】	得
0	吉田	GK	明神	0
			小野里	0
2	三井田	FP	田井	1
1	鈴木		北村	1
0	佐々木房		北口	3
1	落合		津田	0
0	佐々木洋		原	1
0	藤盛		川口	1
0	遠藤		小野塚	0
0	江川		綱川	0
0	蓮見		隈	0

4（0）7MT（0）7

正崎電機 11（5－2 6－2）4 東京女体大

得	【東女】		【大崎】	得
0	千明	GK	川崎	0
			古谷	0
0	岡本	FP	笠原	1
2	山地		早川	2
1	熊谷		宇井	0
1	浅見		黒川	1
0	川端		鈴木	5
0	沖野谷		加藤	0
0	吉沢		堀	1
0	矢井		小林	1
0	大竹		木幡	0

4（0）7MT（1）11

田村紡 20（12－4 8－5）9 東京重機

得	【重機】		【田村】	得
0	高野	GK	渡辺美	0
			坂上	0
4	斎藤	FP	種村	3
0	山崎		渡辺好	4
2	西山口		水谷	3
1	鷲谷		小林	4
1	畑岡		内藤	0
0	佐原		清水	3
0	飯田		渡辺信	0
0	山口		甲村	3
1	山本		吉開	0

9（1）7MT（3）20

大崎電気 12（6－1 6－0）1 日体大

〔評〕大崎は日体大の甘いパスワークをつき、出足のよいカットから一気に攻め込み一方的に押し勝った。充実を伝えらる女子学生

〔写真説明〕 女子大崎電気対田村紡戦から

得	【日体】		【大崎】	得
0	明神	GK	古谷	0
1	小野里		川崎	0
0	田井		笠原	1
0	北村		早川	2
0	北口		宇井	2
0	津田		黒川	3
0	原	FP	鈴木	3
0	川口		加藤	0
0	小野塚		堀	1
0	強矢		小林	0
0	隈		木幡	0

1（0）7MT（1）12

界のチャンピオン日体大の試合ぶりにしては物足りぬ面があった。

田村紡 12（8—2 4—2）4 三菱鉛筆

得	【三菱】		【田村】	得
0	吉田	GK	渡辺美	0
			坂上	0
0	三井田		種村	4
0	鈴木		渡辺好	0
0	佐々木房		水谷	3
2	落合		小林	3
0	佐々木洋	FP	内藤	1
0	藤盛		清水	1
0	遠藤		甲村	0
0	江川		吉開	0
2	蓮見		渡辺信	0

4（0）7MT（1）12

〔評〕田村紡は種村、水谷、小林のトリオが見事な速攻をみせ、三菱のディフェンスを次々に破って得点、前半で勝負を決めた。体力、テクニックともに田村紡が数段上回っていた（読売新聞から）。

東京重機 13（5—3 8—4）7 東京女体大

三菱鉛筆 9（3—2 6—0）2 東京女体大

大崎電気 11（5—3 6—2）5 東京重機

田村紡 13（4—4 9—5）9 日体大

得	【東女】		【重機】	得
0	千明	GK	高野	0
0	藤森			
2	岡本		斎藤	7
0	山地		山本	2
2	熊谷		山崎	1
2	浅見		西山口	1
0	川端	FP	鷲谷	1
0	沖野谷		畑岡	0
0	吉沢		佐原	0
1	矢井		飯田	1
0	大竹		山口	0

7（0）7MT（0）13

得	【東女】		【三菱】	得
0	千明	GK	吉田	0
0	藤森			
0	岡本		三井田	4
0	山地		鈴木	0
1	熊谷		佐々木房	0
0	浅見		落合	1
1	川端	FP	佐々木洋	0
0	沖野谷		藤盛	0
0	吉沢		遠藤	0
0	矢井		江川	4
0	大竹		蓮見	0

2（1）7MT（0）9

得	【重機】		【大崎】	得
0	高野	GK	川崎	0
			古谷	0
3	斎藤		笠原	1
0	山口		早川	1
0	山崎		宇井	3
1	西山口		黒川	3
1	鷲谷	FP	鈴木	2
0	畑原		加藤	0
0	佐田		堀	0
0	飯岡		小林	0
0	山本		木幡	1

5（1）7MT（1）11

得	【日体】		【田村】	得
0	明神	GK	渡辺美	0
0	小野里		坂上	0
1	田井		種村	4
0	北村		渡辺好	2
6	北口		水谷	1
0	津田		小林	4
0	原	FP	内藤	1
1	川口		清水	1
0	小野塚		渡辺信	0
0	強矢		甲村	0
1	隈		吉開	0

9（1）7MT（2）13

三菱鉛筆 8（3—4 5—1）5 東京重機

得	【重機】		【三菱】	得
0	高野	GK	吉田	0
3	斎藤		三井田	3
0	山崎		鈴木	0
0	西山口		佐々木洋	0
1	鷲谷		佐々木房	0
0	畑岡	FP	落合	0
0	飯田		藤盛	0
1	山本		遠藤	0
			江川	1
			蓮見	4

5（1）7MT（1）8

〔評〕試合は重機が先行し、後半10分まで優位を続けた。しかし三菱は後半、長身の蓮見にボールを集めて反撃、11分5—5としたあとに12分江川7MTで逆転、18分に蓮見がゲットして初のリードを奪った。そのあと気落ちした重機のディフェンスをゆさぶって加点、押し切った。（杉山茂）

日体大 12（7—0 5—5）5 東京女体大

得	【東女】		【日体】	得
0	千明	GK	明神	0
0	藤森		小野里	0
0	岡本		田井	0
0	池谷		北村	5
1	熊谷		北口	3
1	浅見		津田	1
0	中村	FP	原	1
1	沖野谷		川口	1
0	吉沢		内山	0
2	矢井		内藤	0
0	大竹		隈	1

5（0）7MT（0）12

〔評〕関東学生をはじめ何回となく対戦している両校だけに、互いの手のうちはわかっていたはずだが、この試合に3位をかけた日体大の気力が相手を圧倒した。立ち上がりから連続9点を奪う猛攻であっさり勝負を決めてしまった。（杉山茂）

田村紡のパス乱れる

大崎電気 8（4—1 4—3）4 田村紡

得	【田村】		【大崎】	得
0	渡辺美	GK	川崎	0
			古谷	0
1	種村		笠原	1
0	渡辺好		早川	3
1	水谷		宇井	1
1	小林		黒川	1
1	内藤	FP	鈴木	0
0	清水		加藤	0
0	渡辺信		堀	1
0	甲村		小林	1
0	吉開		木幡	0

4（1）7MT（1）8

〔評〕今シーズン3回目の対戦。全日本総は8—6で大崎、国体は12—9で田村と1勝1敗。つまり〃決戦〃ともいえる試合。先手は2分大崎が7MTを代打堀が見事に決めて奪った。「速攻の応酬を避け、遅攻で臨む」作戦の大崎に、この1点は大きかった。優位に立った余裕も手伝って徹底したボール回しは確実に味方の手から手に渡った。出足のよさでは定評のある田村紡ディフェンスも左右に動くだけで、カットのチャンスをはばまれた。

しかも大崎は3分、早川が判断よく放ったジャンプシュートが決まって2—0。じらされた田村紡はマイボールをすばやく相手陣に運びながら、あせりから凡失が続いてシュートチャンスに結びつけることができなかった。6分にはオーバーステップから大崎の速攻を誘発、宇井に決められ3—0とされてしまった。15分田村紡はようやく小林の7MTで1—3としたが、大崎もタイムアップ直前、FTから小林がゲット、前半5本のシュートのうち4本を決めるソツのない攻撃で3点差をキープした。

後半田村紡は内藤のゲットで2—4としたが、そのあと再び大崎のローリングにテンポをくずされ、一進一退からスコアを3—5、4—6と変えたものの、14分大崎小林のサイド沿いの快走にあって失点、17分オールコートアタックに出たはなを黒川に抜かれ、決定的な1点を与えてしまった。田村紡は実力を半分も出さぬままの敗戦だったが、立ち上がりのパスワークの乱れが、相手の作戦を助ける結果になったといえる。

大崎は遅攻に徹底しながらも、急所はのがさぬ攻撃で相手を引き離したのは、さすがベテランぞろいのチーム。ことし2月の全日本実業団で両者がどのような作戦を見せるか興味深い。（杉山茂）

訂正

本誌39号（12月1日発行）の4ページ、第21回国民体育大会の「栄光の跡」の一覧表のうち、一般女子の「豊中高女OG(大阪)」を「豊中高女(大阪)」に、また高校女子の「豊中高女(大阪)」を削除します。

立大、初優勝飾る

全日本学生王座決定戦

第19回全日本学生王座決定戦は昨年12月3日午後1時から大阪府立体育会館で開かれた。立大（東日東）は終始同志社大（西日本）を圧倒し、初優勝した。15年ぶりに出場した立大は木野、北村を軸にスピード豊かな試合運びをみせ、前半12分から連続7点をあげて13－3とし、前半で勝負を決めた。関東代表の優勝は6年連続、11度目。

立　大　28（15－7、13－3）10　同　大

「レフェリー」丸岡一清（日体大出）

得	立大		同大	得
0	尾形	GK	林谷	0
0	川口	GK	和保	0
8	木野	FP	林	1
5	東	FP	飯田	4
0	北井	FP	佐藤	2
2	藤城	FP	守本	2
6	北村	FP	稲葉	0
3	野田	FP	藁品	0
0	戸田	FP	松浦	1
3	小野口	FP	高橋	0
1	倉前	FP	舟木	0
28（5）		7MT		（1）10

▽反則退場者　戸田（立大）

同大、岡山大を破る

西日本学生王座に6連勝

第7回西日本学生王座決定戦（兼全日本学生王座西日本予選）は11月27日岡山大グラウンドで同志社大（関西）対岡山大（中・四国）の初顔合わせで開かれ、攻守に上回る同志社大が6連勝した。関西代表はこれで7連勝。

同志社大（関西）31（19－10、12－6）16　岡山大（中・四国）

三すくみで優勝預り

第6回早慶明定期戦

関東学生界の最後を飾る第6回早慶明定期戦は昨年11月26日東京・早大記念会堂で行われた。

第一試合で慶大が早大を降し連勝なるかにみえたが、明大の奮起にあって完敗。結局三校いずれも1勝1敗で「優勝預り」となった。この定期戦で優勝が決まらなかったのは初めて。

なお第2試合は第20回慶明定期戦を兼ねこれで両校10勝10敗。同定期戦は今回で終止符がうたれることになった。

慶　大　15（10－4、5－7）11　早　大

明　大　25（13－6、12－5）11　慶　大

早　大　19（10－7、9－7）14　明　大

岡山大が初優勝

◇第10回中・四国学生秋季リーグ戦（11月5－6日、松山商科大）

〔一部〕

岡山大　14－9　広島商大

岡山大　27－11　広島大

岡山大　15－5　山口大

岡山大　29－10　近大工学部

広島商大　16－12　近大工学部

広島大　25－15　近大工学部

山口大　19－16　近大工学部

広島大　17－15　広島商大

山口大　11－11　広島商大（引き分け）

山口大　14－11　広島大

（順位）①岡山大4勝②山口大2勝1敗1分け③広島大2勝2敗④広商大1勝2敗1分け⑤近大工学部4敗

〔二部〕

広大福山　26－9　愛媛大

松山商大　28－12　愛媛大

山口大工　30－15　愛媛大

松山商大　19分19　広大福山

山口大工　9分9　広大福山

山口大工　15－13　松山商大

（順位）①山口大工学部2勝1分け②広島大福山1勝2分け③松山商大1勝1敗1分け④愛媛大3敗

▽一、二部入れ替え戦

山口大工学部　19－14　近大工学部

<王座の戦績>

年度	優勝校	準優勝校
23	文理大	関学
24	関学	日体大
25	関学	早大
26	関学	立大
27	関学	日体大
28	関学	早大
29	関学	日体大
30	日体大	関学
31	芝浦工大	関学
32	芝浦工大	関学
33	関学	芝浦工大
34	芝浦工大	関学
35	関学	芝浦工大
36	芝浦工大	同志社大
37	芝浦工大	同志社大
38	芝浦工大	同志社大
39	芝浦工大	同志社大
40	芝浦工大	同志社大
41	立大	同志社大

同志社大、11度目の優勝（関西学生秋季リーグ）

中京大は14シーズン連続（東海学生秋季リーグ）

39号既報の各学連秋のリーグ戦は昨年10月と11月中間まで全国各地で行なわれたが、試合記録は次のとおり。

関西学生秋季リーグ戦（11月・大阪ほか）

関西学生秋季リーグ戦は昨年10月30日関大体育館で開幕、大阪周辺の体育館を転戦して日程が進められた。攻守に地力のある同志社大が全勝をとげた。二部は大阪府立大6回目の優勝となったが、入れ替え戦で敗れた。

▽一部

関大 19（10―4、9―5）9 京大

甲南大 21（7―9、14―5）14 大阪経大

同志社大 36（18―6、18―6）12 大阪大

関学 21（13―3、8―3）6 桃山学院

関大 26（11―10、15―6）16 大阪経大

関学 30（18―4、12―4）8 大阪大

甲南大 22（12―5、10―3）8 京大

同志社大 24（11―10、13―5）15 桃山学院

同志社大 24（15―6、9―6）12 大阪経大

関大 28（17―6、11―2）8 桃山学院

関学 20（9―8、11―8）16 京大

甲南大 23（14―4、9―6）10 大阪大

同志社大 22（12―6、10―3）9 京大

関学 19（9―7、10―7）14 大阪経大

申南大 28（12―8、16―5）13 桃山学院

関大 35（20―2、15―6）8 大阪大

大阪経大 15（8―7、7―5）12 桃山学院

京大 24（13―4、11―5）9 大阪大

関学 21（13―9、8―4）13 甲南大

同志社大 18（11―8、7―8）16 関大

大阪経大 20（14―8、6―3）11 大阪大

京大 16（9―8、7―7）15 桃山学院

同志社大 20（11―6、9―4）10 甲南大

関学 13（5―5、8―8）13 関大（引き分け）

桃山学院 20（9―11、11―5）16 大阪大

京大 10（6―0、4―8）8 大阪経大

関大 18（8―9、10―8）17 甲南大

同志社大 21（9―11、12―4）15 関学

関西学生秋季リーグ（1部）

	同	関	学	甲	京	経	桃	阪	勝	負	分
①同志社大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	0	0
②関　　大	●	×	△	○	○	○	○	○	5	1	1
③関　　学	●	△	×	○	○	○	○	○	5	1	1
④甲　南　大	●	●	●	×	○	○	○	○	4	3	0
⑤京　　大	●	●	●	●	×	○	○	○	3	4	0
⑥大　経　大	●	●	●	●	●	×	○	○	2	5	0
⑦桃　山　学	●	●	●	●	●	●	×	○	1	6	0
⑧大　阪　大	●	●	●	●	●	●	●	×	0	7	0

▽一、二部入れ替え戦

大阪経大（一部）15（5―10、8―3、1―0、1―1）14 大阪府大（二部）

東海学生秋季リーグ戦（11月・名古屋）

▽男子一部

名大 20―12 南山大

中京大 17―9 愛知教大

岐阜大 20―15 愛知大

愛知教大 29―7 愛知大

名大 38―20 岐阜大

中京大 25―9 南山大

中京大 31―15 岐阜大

愛知教大 18―7 南山大

名大 26―9 愛知大

中京大 17（7―5、10―8）13 名大

南山大 18―14 愛知大

愛知教大 26―19 岐阜大

岐阜大 28―20 南山大

中京大 36―9 愛知大

名大 21―9 愛知教大

【順位】①中京大5戦全勝②名大4勝1敗③愛知教大3勝2敗④岐阜大2勝3敗⑤南山大1勝4敗⑥愛知大5敗＝中京大は14シーズン連続15回目の優勝

【二部順位】①静岡大6勝1敗（得点率〇・六八）②名城大6勝1敗（〇・五八）③名工大6勝1敗（〇・五七）④三重大3勝3敗1分⑤中部工大⑥滋賀大⑦県立三重大⑧大同工大＝静岡大は3回目の優勝

▽一、二部入れ替え戦

愛知大（一部）15―14 静岡大（二部）

▽女子

中京女大 14―1 松阪女短大

中京大 22―2 松阪女短大

中京大 6―3 中京女大

【順位】①中京大②中京女大③松阪女短大＝中京大は2シーズンぶり2回目の優勝

第11回東北・北海道学生選手権大会（10月・山形）

▽予選リーグA組

東北大 26―1 山形大

山形大 14―13 福島大

東北大 30―11 福島大

▽同B組

東北学院 32―11 岩手大

東北学院 27―9 北海道大

北海道大 27―19 岩手大

▽決勝トーナメント1回戦

東北大 27（15―6、12―2）8 北海道大

東北学院大 34（18―6、16―7）13 山形大

▽同決勝

東北学院大 17（8―5、9―6）11 東北大

優勝 〃 〃 〃 東北学院大は4年連続7回目の優勝

時評

全日本選抜の問題点

選考基準の明確化を

今シーズンのハンドボール日本一を決める第13回全日本選抜(12月21日～25日・東京)は男子全立大(東京)女子大崎電気(埼玉)の優勝で幕となった。大会前に起こった高崎理事長辞任問題や、東京都協会の大会主管返上など協会内部のトラブルが伝わってしまったせいか、盛り上がりに乏しかった。しかも女子で大洋デパート(熊本)愛知紡(愛知)の2強が勤務の関係で辞退したため、それ以上に寂しい大会となってしまった。

男子は世界選手権代表選手のほとんどが顔を出し、これらの選手はさすがに体、技とも充実してあざやかなプレーを見せたが、チームとしての試合展開には見るべきものが少なく、期待はずれであった。技術的な全体評は別の場に譲るとして、運営面などで再考の余地ある点をとらえてみたい。まず開催時期だが、もう少し早められないものか。学生界の日程と重なり合うため11月は無理、1月だと学年試験などでこれまたむずかしい。しかし、いまのままでは年末を控える実業団の出場が年々減る一方だと思う。せめて12月第1週にでも開けるように年間事業の調整をはかってほしい。次に出場チームの選抜基準を明確にし、国体終了直後に推薦チームおよび補欠順位を発表すべきではないか。推薦を受けたほうがあわてるなどというのはとんだナンセンスである。補欠チームとその順位の通達も重要なことで、今度もあきらかに練習不足のチームが出ていたが、当該チームだけを責めることはできぬ。

次に出場チーム側の心構えにも一つ苦言を提しておくと、学生勢のなかで4年生を主力からはずしたメンバーで臨むチームがあるのはどうしたものか。卒業試験などを前にいつまでもシーズンが続いてはというわけなのだろうが、この大会への出場は今シーズンの実績が評価されて決められるのである。あくまでその年の〝日本一〟を決めるという大義がある。学生の立ち場もよくわかるが、来シーズンの腕だめしの場にするのはうなずけない。関係者の意見はいかがだろう。

ところで〝日本一〟を決める大会ならば、もう少し運営に演出があってもいい。ショー化、スター化させる必要はもちろんないが、決勝リーグにはいったらメンバー紹介ぐらいしてもよいと思う。場内マイクで名簿を読み上げたところで親近感もわかないし、だれがどんな選手なのかもわからない。そのために費す時間はせいぜい5分間だ。プログラムにの区別がされていないのも不親切。あるファンが記者席に聞こえよがしにいったことばが耳に残る。「入場料をとるところまでは一人前になったが、運営の不勉強は10年間相も変わらずだ」と。

(杉山　茂)

楽書き帖

若吉葉，全立大を応援

鴛尾武治

○…昨年12月の全日本選抜選手権大会に珍しいファンがいた。それはお相撲さん―宮城野部屋の十両力士、若吉葉がその人。和服姿でスタンドのいちばん前に陣取り、全立大に声援を送っていた。若吉葉がきた日は、ちょうど決勝リーグの最終日で、全立大対芝浦工大戦を観戦した。そこでさっそく若吉葉にインタビューした。〝ハンドボールは好きなの?〟若吉葉「実はきょう初めてなんです。ハンドボールってスピードがあり、なかなかおもしろいですね」〝中学時代ハンドボールを見たことがありますか〟若吉葉「一度もない」〝きょうはどちらの応援なの?〟若吉葉「全立大です」〝どうして?〟「浜田さん(立大出)と仲がよいので、それで応援にきたんですよ」―浜田さんというのは、日本協会常務理事で立大の先輩。浜田さんは宮城野部屋へよく遊びに行き、宮城野親方はじめ一門の力士と仲がいい。そんなわけで若吉葉の応援となったもの。二、三年前のこの大会に、元大関三根山の高島親方(勝負検査役)が弟子を連れて観戦したことがある。高島親方と宮城野親方とは、むかし高島部屋の兄弟弟子であった。

○…世界選手権大会日本チームの村田弘監督に〝今度のチームは、いままでにない最強のメンバーである。こんなメンバーを持つ監督はしあわせだよ。チームワークさえよければ、ベスト8どころかベスト4も確実だ〟と言ったら、この村田監督いわく「そんなに期待されると荷が重くなる。ただ心配しているのは、海外遠征の経験者がGKの尾形(立大)ただ一人。FPに経験者がいないのが気がかり。それに若さだけではダメだ。これをカバーするにはコンビネーションをうまくやらないと…」となかなか慎重。〝前回はノルウェーに勝っている(18―14)。今度はロングシューターが多いので、ノルウェー、ハンガリーには勝てるよ〟と追い打ちをかけたら「あまりおどさないでください。とにかくベストを尽くしますから…。ほんとうは竹野(大崎電気)がいたら、ずいぶん心強いんですがね」と村田監督は本音をはいた。

○…昨年11月下旬の第4回東京都選手権大会女子決勝で、三菱鉛筆が大崎電気を5―4と1点差で破り初優勝した。大崎電気はエース早川が右足のカカトを痛めて欠場したのが敗因。一方、三菱鉛筆の選手は試合終了のホイッスルが鳴ると同時に、眼に涙を浮かべていた。よほどうれしかったのだろう。監督の池田君は「大崎電気に勝たせていただいたんです。しかし大崎電気はこわい。12月の全日本選抜選手権は、大崎電気が優勝するんじゃないでしょうか」ときっぱり言いきった。12月の全日本選抜は池田君の予言どおりになった。

海外スコープ

衰退した欧州の11人制 高度な技術の7人制

奥戸忠夫

筆者は共同通信社運動部次長・前ヨーロッパ特派員

○○○○○ はなやかだった11人制 ●●●●●

オリンピックのハンドボール競技決勝には20万人の観衆が集まった。この数字はオリンピックそのものの人気というのではなく、ハンドボールそのものにも人気があったことを示している。1936年のベルリン大会のことであり、フィールド・ハンドボール（11人制）がサッカーと同じように、おもしろくて刺激のあるスポーツとして発展の途上にあり、ファンをひきつける要素をもっているように考えられたときのことであった。2年後の1938年に開かれた世界フィールド・ハンドボール選手権のときにもベルリン、ライプチッヒ、マグデブルク、デサウなどドイツ各地での試合には10万人近い観衆が集まった。ハンドボールの発祥地であるドイツの場合、各都市間の決勝、国際試合のときには平均して3万のファンが詰めかけたものだ。これらファンはハンドボールの持つおもしろさ、正確なパス、ラッシュ、すばらしいシュート、これを守るキーパーのファインセーブなどにひかれた人たちだった。

○○○○○ ミュンヘン大会は7人制 ●●●●●●

それから30年たった今日、1972年にミュンヘン（西ドイツ）で開かれるオリンピックがハンドボール競技の実施を36年ぶりに決めたのに、かつてのはなやかなフィールド・ハンドボールはその弟分である7人制室内ハンドボールにその座を譲り、7人制ハンドボール基礎づくりのスポーツということになり下がってしまった。それというのも、ミュンヘン・オリンピックで実施されるハンドボールは11人制の戸外競技ではなく、7人制に決まったからである。

○○○ 中盤戦の不興が原因 ●●●●●

たしかにIOC（国際オリンピック委員会）で決められた公式規則や規定は「ハンドボール」という名称を使っているが、すべての人々がいまではこの名に価し、オリンピック競技としての栄誉を与えられるのは7人制だけであることを知っている。どうしてこのような変化が起きたろうか。またどうして室内ハンドボールがまず欧州で人気を呼び、次いで全世界でこのように短期間で人気のあるスポーツになったのだろうか。その原因は11人制ハンドボールの試合方法のなかにあるといわねばならない。その最大のものはゴールカバーのやり方である。

戸外ハンドボールでは地域が三分され、ゴール前の地域でのプレーヤーは敵味方とも6人に制限されている。このため6人の選手による防御ラインというものが考え出された。この方法は6人がゴール前に並び、それぞれに割り当てられた一部の地域を守るというものである。このことは中間地域でのプレーが放棄されたことを意味している。6人の攻撃者はシュート地域にいる同数の防御者に直面し、防御ラインは左右にまるで柔軟な棒のように移動し、どこに行っても攻撃者の前には防御者がついてくる。

この攻撃者と防衛者との〝激突〟を避けるためにオフサイド・ルールが廃止された。この廃止に伴う最も典型的な例が、スイスで開かれた戦後第1回のフィールド・ハンドボール選手権のスウェーデン対デンマーク戦で生まれた。この両チームはともに室内ハンドボールについてもよく知っていたが、結果はいっぷう変わったものになった。スウェーデンが攻撃と始めようとすると、デンマークは中間地域をさっと引き揚げ、10人がシューティングサークルを中心にぐるりと扇形に防衛線を敷いてしまう。スウェーデン側の10人の攻撃陣はこの前もでみ合い、やっとなんとかゴールをめがけてシュートする。代わってデンマークが攻撃に移るとスウェーデンも同じ戦法をとる。スイスのファンたちはハンドボールの試合というより、二つのなだれがフィールドを右の端から左の端へと動いて行くのを見ているだけだった。

この試合が実は11人制ハンドボールの衰退と没落の始まりだった。この〝プレーイング・セーフ（点をやらない）〟という防御戦法

〔写真説明〕西ドイツの11人制

がどんどん採用されていくうちに、新しい世代の選手たちが生まれてきた。そうしてボールをインターセプトするトリック技術に基づく柔軟な防御戦法がとり入れられ、試合はいよいよおもしろくなった。というのは、この結果、プレーは反則によりしばしば中断されることになったからだ。そうしてこの活発でスピードのある競技は小手先のものとなり、ファンを喜ばせる要素をなくしていった。ハンドボールの将来のために、もっと技術的なマークをするようにという一部専門家の意見はかえりみられなかった。

たとえこの方法が、中間地域でのプレーを再現する理想的な方法であったとしても、試合に勝つ可能性のないこんな戦術をどのチームが採用しただろうか。たしかにオープンプレーをしたチームは〃プレー・セーフ〃部隊の前に敗退した。このためオープンプレーは力のだいぶ劣った相手と戦うときだけ採用されたが、相手はプレー・セーフでくるのだから成功率は半分ぐらいだった。このためハンドボールの一流のプレーを見せる元全ドイツチームのエキシビション試合は、米国でさえショーとして扱われた。一方フィールド・ハンドボールでのドイツ・チームの優越は他の国の闘志をくじけさせ、これらの国に室内ハンドボールとか7人制フィールド・ハンドボールに目を向けさせた。

○○○○ 変化多い7人制 ●●●

このためスウェーデン、デンマーク、チェコ、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、最後にソ連が7人制に関心を示した。こうして11人制の国際ゲームとしての価値は最近ぐんと落ちてきた。11人制に執着したのはハンドボールの発生いらいこれを支持してきた東西ドイツ、オーストリア、スイス、ポーランドであり、これらの国は昨年6月25日から7月3日までオーストリアで開かれた第7回世界フィールド・ハンドボール選手権に参加した。スイスは現在7人制屋外ハンドボールの試験的な試合をやっており、この結果が11人制の将来を決めることになりそうだ。

それにしてもフィールド・ハンドボールを衰退させる原因となったマーク・システムは、現在室内ハンドボールでも〃アキレスけん〃になっている。それでも室内の場合は攻撃と防衛の交代が急速に行なわれるため変化が多く、ハンドボールの魅力だったスピードを満足させてくれる。各国のトップクラスのチームの戦法に変化のあること、彼らの技術が高度なことが室内ハンドボールをファンを呼びるスポーツにしている。

○○○○ 7人制への足がかりに ●●●●●

ところで11人制の弱点を指摘したこの文章は、決してフィールド・ハンドボールに〃とどめ〃をさすためのものではない。11人制はその明らかな欠陥にもかかわらず、多くのトレーナーたちは、これが室内ハンドボールの理想的な基礎づくりになると考えている。11人制で養なわれた走力、跳躍力、投力はそのまま7人制で生かせるし、シュートについても同様である。

東ドイツは一昨年室内ハンドボールの欧州選手権に優勝したが、これはフィールド・ハンドボールでの成果が実ったものだ。とくに室内ハンドボールと戸外ハンドボールのシーズンが異なる点からみてこのことは注目する必要がある。ドイツの場合は一年を分け、四カ月をフィールド・ハンドボール、八カ月を室内と分けたらよいだろうと思う。このように11人制は7人制ハンドボールにつながっているが、このことを各国に知らせるにはまだまだ時が必要のようだ。

〜〜〜（了）

〔海外スコープ〕

ボールの魔術師
ステプラー選手

各国にはいろいろなタイプの選手がいるのは、日本と同じである。それらの選手が互いに欠点を補いつつチームを構成している。ただ単にロングシューターのみでは、チームを勝利を導くことはできない。今回ここに紹介するのは、スイスの国際選手であるバーゼルのエディ・ステプラーである。

エディ・ステプラーはボールの魔術師と異名をとる選手である。彼はあらゆる種類のフェイント・プレーを使い、シュートをしたり、パスをしたりして敵を窮地に落としいれる。

Balltechnische Zaubereien

fotografiert von Hanns Apfel

Sprungwurfansatz vor der Abwehr Glaus, Vieth und Schweingruber von Bern, Schußantäuschen und Rückwärtsabgabe an Dürrenberger. — Links zeigt sich der Siebenmeterspezialist mit kurzem Anzucken die Reaktion des Torwarts erprobend und dann kommt nach Bedarf ein perfider Aufsetzer.

Getäuscht!

Aus der Trickkiste des Basler Nationalspielers Edy Stebler (Basel)

OBEN: Zwei Knickwürfe des Linkshänders, der Schußabgabe nach links antäuscht und dann nach rechts wegfällt.

RECHTS: Antäuschen einer Abgabe an den Kreisläufer Gütlin, die ganze Abwehr zieht alarmiert mit, Stebler aber behält den Ball unter Kontrolle.

写真によって彼のプレーを見ていこう。

〔右上〕ステプラーが左手のミドルシュート・フェイントをみせて守備選手を引きつける。そして後ろから走ってくる選手にバックパスをしたところである。

〔左上〕7MTの写真である。フェイントにかけているところ。この場合でも、ボールはしっかり彼の手についているところが特徴である。

〔右中〕まず左のシュートフェイントをし、バックを寄せておいて、すぐ右に体を傾け、シュートする瞬間。バックの足とステプラーの足の位置をよく注意して見てください。

〔左中〕体を右に傾けた左ききのシュートである。シュートを投げ終わった瞬間。

〔下〕ステプラーのパスフェイント。ゴールエリア中央に位置しているプレーヤーへのパスフェイント。このフェイントにより、ポスト付近を守備している全選手は中央の選手にすべて引きつけられている。このあとステプラーはボールを完全にコントロールしていて、そのあと背番号4の選手にパスして得点させている。ここにある写真はすべて国内試合のもの。

◇　◇　◇

男子32チームが参加

全日本実業団　波乱必至の女子リーグ

第7回全日本実業団選手権は2月4日から8日まで名古屋市の愛知県体育館（5日のみ金山体育館併用）で開かれるが、組み合わせが別表のように決まった（県名のあとの○内数字は出場回数）。出場チームは男子が史上最高の32、女子は前大会と同じく5チームで、男子は12チームが初出場である。

組み合わせによると、男子は7連勝を目ざす大崎電気（埼玉）前回2位の千代田印刷機製造（東京）大分国体2位の宗形製作所（大阪）同3位住友化学菊本（愛媛）がシードされ、この4強が激しい優勝争いを演じるものと予想される。しかし、日本鋼管川崎（神奈川）東海製鉄（愛知）本田技研（三重）常盤工業（岐阜）三菱重工（愛知）武田薬品光（山口）ら進境を伝えられ、さらに富士レジン（兵庫）日進商会（神奈川）丸善石油（和歌山）静岡日野自動車（静岡）自衛隊勝田（茨城）らのダークホースぶりも興味深い。

京都市役所（京都）三菱レイヨン大竹（広島）自衛隊第32普通科連隊（東京）日東電工（大阪）大阪ガス（大阪）などなじみのチームが今年は顔を見せていない。

女子は、大崎電気（埼玉＝全日本総合、全日本選抜優勝）田村紡（三重＝国体優勝）大洋デパート（熊本＝前回優勝）の3強に、巻き返しをねらう愛知紡（愛知）とたくましさを加えた三菱鉛筆（山形）がからむ。順当ならば最終日の大崎対田村紡戦に優勝がかかろうが、今シーズン無冠の大洋も元気いっぱいで予断は全く許せない。波乱の目は三菱鉛筆。東京選手権優勝（昨年11月）で自信と地力をつけただけに無気味な存在だ（S）。

【男子トーナメント】　5日　6日

大崎電気（埼玉）⑦
中部電力（愛知）①
富士レジン（兵庫）①
北陸電力（福井）①
日本碍子（愛知）①
日本鋼管川崎（神奈川）④
日新製鋼呉（広島）③
三菱油化（三重）①
（7日）（8日）

盛岡市役所（岩手）⑤
小松製作所（石川）②
日進商会（神奈川）①
東海製鉄（愛知）①
丸善石油（和歌山）③
常盤工業（岐阜）②
静岡日野自動車（静岡）③
千代田印刷機製造（東京）③
（7日）（8日）

住友化学菊本（愛媛）⑥
安田生命（東京）⑤
タヨシ産業（愛知）③
川崎車輌（兵庫）③
自衛隊勝田（茨城）④
大同製鋼（愛知）②
本田技研（三重）⑥
住友金属（和歌山）①
（7日）（8日）

日立製作所日立（茨城）①
日本鋼管福山（広島）①
京都信用金庫（京都）③
昭和染工（愛知）①
三菱重工名古屋（愛知）⑤
原子力研究所（茨城）③
武田薬品光（山口）①
宗形製作所（大阪）④
（7日）（8日）

決勝（8日）

【女子決勝リーグ】

出場チーム　大洋デパート（熊本）⑤・大崎電気（埼玉）⑥・田村紡（三重）⑤・愛知紡（愛知）⑦・三菱鉛筆（山形）②

日程		
2月4日	田村紡―三菱鉛筆	大崎電―愛知紡
5日	大　洋―三菱鉛筆	田村紡―愛知紡
6日	大崎電―三菱鉛筆	田村紡―大　洋
7日	大　洋―大崎電	愛知紡―三菱鉛筆
8日	大　洋―愛知紡	田村紡―大崎電

球界パトロール

20年の球史に終止符

慶大対明大定期戦

昭和22年から続けられていた慶大対明大定期戦は昨年11月の第20回を最後に発展的解消をとげた。同定期戦は4年前から早慶明定期戦（三大学リーグ）に吸収され、実際には、昭和37年11月日吉（慶大）で開かれた第16回が単独開催の最後になっていた。

第17回以後の試合が早慶明定期戦と〝兼任〟になっていることは両校間でもアイマイになっており「3大学定期戦への関心を高め、一層充実させるためにも、一つのカードだけ別の意味を含ませるのは望ましくない。それに20回とキリもよいので打ち切ることにした」（両チームOBの話）わけで、昨年試合終了後正式に申し合わせた。

慶大、明大とも戦前からの伝統をもち、球界の最古参として両校の友好も創設当時から深かった。この定期戦も第二次大戦後、関東学生リーグの復活が軌道にのるのと前後して始められ、早大対関学定期戦（昭和21年から）に次ぐ古い球史をもち、関東学連内同士の定期戦としてはもっと長い交歓がつづいていた。

その解消を惜しむ声が校内外から寄せられていると聞くが、三大学定期戦への発展とあればしかたがない。第一回からの成績は別表のとおりだが、10勝10敗と星を分けあっているのも友好両校の〝結着〟にふさわしい。これまでに解消されたおもな大学定期戦には日体大対東京教大、芝浦工大対大阪府大（浪速大）などがある。

慶大対明大定期戦20戦のあと

年	結果
昭22	明大5―3慶大
昭23	明大16―4慶大
昭24	明大7―1慶大
昭25	慶大3―1明大
昭26	慶大7―5明大
昭27	明大11―9慶大
昭28	慶大12―5明大
昭29	慶大12―9明大
昭30	慶大11―10明大
昭31	慶大16―10明大
昭32	明大18―16慶大
昭33	明大13―9慶大
昭34	明大11―10慶大
昭35	明大14―5慶大
昭36	慶大11―10明大
昭37	慶大22―17明大
昭38	慶大26―24明大
昭39	明大22―15慶大
昭40	慶大23―18明大
昭41	明大25―11慶大

ほんとうによかった

起工高（愛知）

私が起工高へ入学しハンドボール部へ入部してから一年と九カ月が過ぎました。私がハンドボール部へはいる気持ちになったのは、第一に体質に合っている。第二に中学でやったことがないからどんなスポーツであるか自分のからだで知りたかった。第三に親しみやすいから…。

入部した初日からつらい運動だったので、初めの三週間ぐらいはハンドボールの練習が終わって帰宅すると、すぐに寝てしまった。でも幾日か過ぎると、その運動に慣れて勉強のほうも軌道に乗った。

高校へはいってからの初の夏休みは、私にとって一生忘れないだろう。それはフットワーク、ダッシュなどが一時間以上続いた。それに砂ぼこりが飛んでくる。口が乾く。練習をやる気がしなかったが、先輩にハッパをかけられ、毎日練習してきた。このような激しい運動であったので、私といっしょにはいった九人のうち八人がやめてしまった。あとになってみんなといっしょにやめなくてよかったと思った。

試合をしたり見たりして、スポーツマンらしくなった。そして粘りの根性、チームワークの尊さなど多くのことを教えられた。また他の学校のハンドボール部員の友人も多くできた。ほんとうにハンドボールをやってよかったと思った。（加藤二三男）

起工高チーム

追い越せ!!

馬頭高（栃木）

私たち三年生が入学した年、転任してこられた現監督の星先生を中心に、その年の二学期から同好会としてハンドボールの練習を始めました。県内には女子のチーム数が少なくて、練習試合もできません。男子のチームと試合をしたり、バスケットボールクラブの女子に相手を頼んだりして、新設クラブとしての部員の不足や予算の不足を補ってきました。しかし公式戦ともなれば、チーム数は少なくても栃木女子高を筆頭に不足のない相手ばかり。「追いつけ」そして「追い越せ」をモットーに努力しています。

昨年の関東大会予選は一回戦に勝ち、代表決定リーグに参加しましたが、だいじな二試合をともに1点差で敗れました。同時に発足した男子が出場権を獲得したのを横目でにらみながら、あらゆる意味での1点差の壁の厚さを身をもって味わってしまいました。三年生はあと1試合しか残っていませんが、最後までやり抜こう。「追いつき、追い越して新人チームにバトンを渡そう」ときょうも若い情熱を練習に傾けています。後輩たちも私たちの気持ちをよく知っているので、必ずがんばってくれると思います。写真は監督さんと三年生です。（小室初江）

馬頭高チーム

伝統を築こう

花巻農高（岩手）

私たちの学校にハンドボールが結成してから約2年。伝統のないこのクラブに、私たちクラブ員が誓ったことばは「われわれの手で伝統をつくろう」ということでした。同好会として成立した当時は部員わずか12人。こんな小人数のなかで私たちはハンドボールにかんする知識・技術を一から学ばなければなりませんでした。

野球部のボールが飛び込んで来る。ソフトボールのボールも飛び込んで来る。そんな危険ななかで私たちは片面だけを用い、毎日練習に励みました。監督の声が狭い校庭のすみずみまで飛び散る。練習に続く練習……。練習に耐えきれず、なんど心がくじけそうになったかわかりません。そのなかで私たちは合宿をし、チームワークづくりに専念し、監督とともに一年を過ごしました。昨年は新人6人を加え「全国大会出場」を合いことばに練習に励みました。

結成されて日も浅い私たちが着々と伝統をつくり、昨年地元盛岡市で開かれた全国大会出場権を得ました。これは監督ならびに諸先生がたのご援助のたまものと思い、花農ハンドボール発展のために、これからも活動していきたいと思っています。

花巻農高チーム

思い出

一関修紅高（岩手）

グラウンドから勇しい掛け声が聞えてきます。そうです、私たちハンドボール部員の声です。いままでハンドボールをやってきて、いちばん先に思い出されることは夏の合宿です。毎日じりじりと照りつける太陽の下で、汗と泥にまみれて練習、練習と、ただ歯をくいしばってがんばってきたことです。とくにあの炎天下のなかで、1時間15分の正座は一生忘れられない。

それにランニングノックと、いまとなっては、あのころの苦しさ

主将　藤巻しま

はなつかしい思い出となりました。この合宿は技術も向上したが、それ以上にチームワークがとれたということです。私たちのチームは技術の面、精神的な面になにか一つ弱いところがあります。そこをこれからの練習で補い、自分たちで考えながらプレーを進めるとだいぶ上達すると思います。高体連、県体でも優勝したことのない私たちのチームが、キャプテンを中心に「ファイト」を出して毎日の練習に汗を流している。（主将　藤巻しま）

あの感激の涙

緑ケ丘高（福島）

私たちハンドボールクラブが誕生してから、ことしで8年目。私たちもその先輩の伝統を守り、ここまで育ってきました。練習はほんとうに苦しかったが、いま考えてみると、社会へ出てからのきびしさに耐えられるだけの根性が植つけられたと思います。いまふり返ってみると、昨年はわれわれのクラブに幸運が回ってきました。福島県私立高等学校体育大会で、二年連続優勝の若松一高を破り初めて手にした優勝カップ。全国大会につながる県大会は準決勝で強敵郡山女子高と対戦、前半同点、後半試合終了30秒前に待望の1点を入れて、夢にまで見た東北大会二度目の出場権を得ることができました。

「東北大会1回戦は宮城二女と対戦し、前半1－5で苦戦しましたが、日ごろつちかったわれらの根性を心残りなく発揮し、後半見事逆転に成功し、14－8で勝ちました。そしてあの1点1点を思い浮かべるたびに、あの感激の涙を忘れることができません。大きな試合に出るということは、自分たちにとってもクラブにとっても最大のプラスになりました。あすへの前進と夢見て、名誉ある伝統を守り続け、クラブ員一同練習に励んでいます。（主将　長沢マサ子）

緑ケ丘高チーム

団結

韮崎高（山梨）

主将　山本すみ子

私たちのハンドボール部女子チームは、三年生だけで構成されている。三年間の歴史を持って現在に至っているかというと、そうでない。三年になってから、初めてボールを握った人が大部分なのである。なかに二人だけが三年間の経験を持っている。しかし先輩に恵まれなかったため、初心者同様であった。昨年4月に7人の入部で新たに編成され、5月下旬の体育祭に臨んだ。しかし初心者ばかりのためランニングといっても5分と持たなかった。シュートにしても同様である。それでもコーチを頼み、練習の強化をはかった。

しかし結果は敗北であった。当然と言えばそれまでだが、やはり残念だった。そのうちに三年であるがゆえに、就職、進学という障害に当たった。練習は遠ざかった。しかし部員の団結はなにごとにも通用した。勝負はどうであろうと（部の存在には重要であるが）部員のある面において、この部がなにかの役に立ったことで満足している。（主将　山本すみ子）

苦しかった合宿

国立高（東京）

僕たちのハンドボール部は発足してことしで三年目になります。歴史が浅いため他のクラブに思うようなことがいえず、予算も少ないのでじゅうぶんな活動ができません。予算が少ないので、とにかく節約しました。またゴール、ネットも自分たちのできる範囲で修理しました。しかし発足二年目で東京都（40校）ベスト8の成績は、日ごろ顧問の稲垣先生と一丸となった練習の成果と自信を深めています。

昨年の夏には合宿をしました。練習は午前3時間、午後3時間。主として基礎練習を中心にしました。ダッシュ、ストップ、ターン、サイドステップと練習は休みなく続いた。太陽の直射を浴び、グラウンドのほこりでのどがかわき、先生の顔が鬼のように見えました。気力あるのみで、からだ中は泥と汗で真っ黒になった。からだの調子が悪く練習を休むものが出たが、たいしたことはなく幸いであった。しかし、苦しかった合宿の全日程を終えたときの満足感は、なにものにも替えがたく貴重なものでした。現在部員の目標は関東大会出場で、これに向かってがんばっています。

国立高チーム

私たちには夢がある

北海道の北の果てオホーツク海を臨む丘の上に私たちの学校、紋

紋別南高（北海道）

別南高校があります。昨年新しくできた学校だけに、資金の面でも設備の面でも問題が多く、ほんとうに苦労しました。練習用のコートも、私たちの手でなんとか練習ができるまでに作りあげました。まだまだ北海道では発展していないスポーツなので、世間の理解も薄く、父兄の反対も多いのです。

遠征費も一円も出ません。一回の遠征に七千円もかかります。私たちは遠征費づくりと、練習との板ばさみにどうにもならないところに追いやられることもしばしばです。でも、私たちにも夢があります。全道を制覇し、全国大会に行くんだ。しかし私たちの手ではどうにもならないでしょう。それでも私たちは満足です。

私たちには、ハンドボールを発展させる使命があるんだ。私たちの心の中にいつもあることばです。ハンドボールを少しでも多くの人に理解してもらい、私たちの目的に向かい、こらからのハンドボールの発展を夢見つつ練習に励みます。雪の深い現在は体育館でひと汗流し、いつか実を結ぶ日を夢見ています。

誇り

君津農林高（千葉）

僕たちの学校はハンドボール部が結成されて、まだ一年。現在僕たちはこの少ない期間に練習試合を兼ねて数々の試合をしてきた。またテレビでハンドボールのことがあれ、それによって見聞を広めた。やはり団体プレーである以上、チームワークは切るに切れない存在である。このチームワークを昨年の夏の合宿で鍛えた。一日8時間といった時間内で、マラソンをはじめあらゆる練習を重ねた。練習は実につらかったが、これを基礎とし、僕たち部員は一年も二年も三年も同輩とし、チームワークをより育成し、先生の指導、部員との話し合いで、経験の薄いこのハンドボールを誇りとしています。

君津農林高チーム

しかし校庭が狭いため、思うように練習ができない。また学校でもＰＲもまだ低く、いろいろと不自由である。こんな悪条件を僕たちはマラソンで鍛えた体力と根性で克服し、早く県のレベルに追いつこうとがんばっています。

私はがんばった

瀬戸高（愛知）

瀬戸高ハンドボールクラブは一年前に同好会として生まれました。指導者もなく、練習場にも恵まれず、きょうまで歩んできた成果もあって昨年からクラブとなりました。

主将　紫田万里子

私は一年間クラブに入部していませんでしたが、二年になってなにかクラブ活動に参加したいと思い、頭に浮かんだのがこのハンドボールクラブでした。その日からなんと二人でクラブ活動に参加しました。負けずぎらいの私は、毎日みんなに負けないようにとがんばりました。最初のうちは堅い覚悟にもかかわらず、つらい練習にネをあげたものでした。そのたびに友人と「ファイト！ファイト！」と声を掛け合い、そしてがんばりました。

いま考えると、ハンドボールにこんなにイカしてしまった私が不思議に思われます。三年生にどなられても、しかられても、ハンドボールが大好きな私です。これからもわれわれのハンドボールクラブを、どこにもない個性のある楽しい、そして充実したクラブにするように私はがんばりたい。

（主将、紫田万里子）

弱いチームから脱皮

尾北高（愛知）

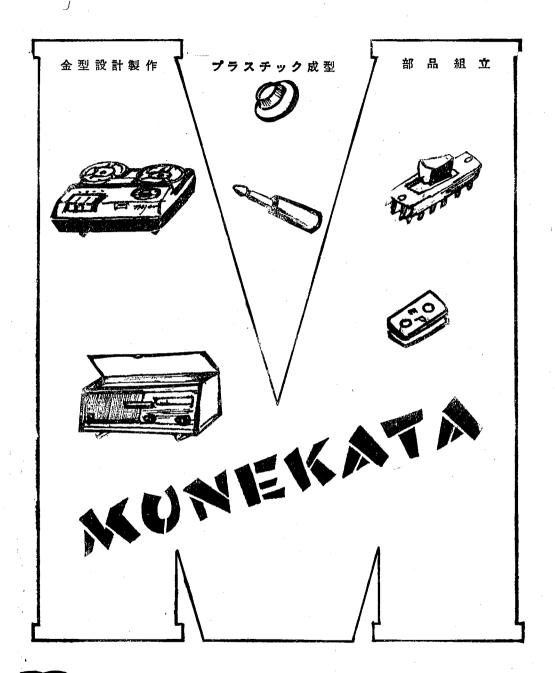
私たちの学校は尾張地区にあります。女子チームは4校ですが、そのなかには名門稲沢高があり、一宮高ありで、試合のたびに大差で敗れています。残念ながら勝てる相手がないという実情です。最大の原因はハンドボール部への希望者がないということです。現在9人の部員も中学での経験者は全くありません。先輩のシュートフォームなどを見よう見まねで覚え、最近になってようやくハンドボールのおもしろさがわかってきました。それに昨年から専門の朱宮先生を迎え、部員は気分を一新して勝とうという意欲が盛り上がって来ました。先生の指導により昨年は体力をつくることを目標にがんばってきました。最大の悩みは部員の少いこと、コートが一面で男子と共用しているということです。現在は県下一弱いチームであるかもしれませんが、しかし私たちはハンドボール部へはいってよかつたと思っています。苦しいことが多いのですが、県下でいちばん弱いチームから少しでも脱皮したいと努力しています。

（主将　石原和子）

尾北高チーム

読売スポーツ賞に明星高

四十一年度読売スポーツ賞のハンドボール部門は明星高校（東京）に決まった。同チームは全国高校選手権大会、第21回国体の高校男子の部で優勝している。

品質と技術を誇る

株式会社宗形製作所

本社工場　大阪府高槻市辻子241番地
TEL. 高槻 (5) 5551 (大代表) 夜間休日 5750～2

関東営業所　横浜市西区久保町49番地
TEL. 横浜 (23) 4964・9119 番

連載第29回

ハンドボール球史

〜女子7人制一本化と愛知紡優勝〜

昭和32年度からルールが大幅に変わり、ゴールエリア13メートル、フリースロー・ライン19メートルとそれぞれ2メートルずつ伸び、13メートルスローは14メートルスローに変わった。いちばん大きな影響を及ぼしたのは35メートルラインの新設である。これにより同ラインで区分されたエリアは守備側はGKを含め7人、攻撃側は6人以上はいることができなくなり、攻防の様相は一変した。

第9回全日本総合選手権は新ルール適用の最初の全日本大会となったが、ルールの理解はともかく、新戦法を編み出すまでには至らなかった。しかし全日体大、西日本日体OB（福岡）、全教大などの名門はさすがにその消化力が高く、見事な試合ぶりで上位に進出した。3位の桜丘会（愛知）は前年秋の国体（第11回・兵庫県加古川市）で初優勝するなど全国最上位チームの地位を不動のものとした。桜丘会の躍進は、国体を主戦場に活躍していた大阪ク、山口クなどとともにクラブ界の存在を確立したことになり、学生界、教員界と並び、一般男子球界の活動として記憶されるべきものがあろう。

優勝は2年連続して全日体大対西日本日体OBの間で争われ、全日体大が逆転勝ちして4回目の優勝を飾った。日体系の優勝は8回目。上位以外で活躍が目だったのは千代田ク（東京）旭桜ク（東京）全芝浦工大、山口ク、それに富山ク、氷見高（富山）などで、とくに千代田ク（全明大）は西日本日体OBと史上に残る激闘を展開した。明大は当時東京5大学リーグに所属し、日本協会を脱退していたため〃仮の姿〃で登場、この奮戦となったわけである。全芝浦工大はこの年も上位進出を前に全日体大と対戦する組み合わせで惜敗。芝浦勢にとって〃日体のカベ〃は厚く、それを打破するのに苦しんだことが現在の大飛躍に実ったのだと思う。

一方女子は、この年から7人制一本化となり、20年近い11人制の幕を閉じた。7人制（室内）の将来性については伝来された当初から高く買われ、すぐに男女7人制一本化を説く急進派も生まれるなどしていた。とりあえず低迷気味の女子界に全面採用を決め、この措置で女子界は大きく前進することになる。さらに大書されるべきなのは、実業団・愛知紡（愛知）の初登場である。全国大会に実業団が出場したのは男女を通じて初めてのことであり、しかも優勝したのだから大きな話題となったのも当然であった。

愛知紡の主力は前年の勝者半田高（愛知）のメンバーで、同チーム全盛劇の初代の花形となるわけだ。7人制一本化の最初の全国大会に実業団が全国を制したことは、女子界に大きな転換期をもたらすとともに、その勢力地図を大きく塗り替えることにもなった。すなわち愛知紡はこのあと昭和37年（第14回）まで連続優勝を遂げ、引き続き大洋デパート（熊本）大崎電気（埼玉）と女王の座は実業団の占有するところとなるのである。「昭和32年」「第9回全日本総合選手権」「愛知紡」――この3つは日本女子ハンドボール史上に欠くことのできない年であり、大会であった。

▼第9回（昭和32年7月27日―31日・富山県氷見市氷見高ほか）

▽男子1回戦

全芝浦工大（東京） 26―1 都留ク（山梨）
中大（東京） 12―3 篝火ク（岐阜）
京都パレス（京都） 不戦勝 奈良ク（奈良）
旭桜ク（東京） 14―7 立命大（京都）
千代田ク（東京） 15―6 富山商高（富山）
山口ク（山口） 13―5 府中ク（東京）

▽同2回戦

全日体大（東京） 11―10 全芝浦工大
富山ク（富山） 8―3 中大
富山商高OB（富山） 9―7 都五商ク（東京）
桜丘会（愛知） 19―6 京都パレス
全教大（東京） 12―8 旭桜ク
芝浦工大（東京） 13―12（延長） 氷見高（富山）
千代田ク 12―6 高岡三日会（富山）
西日本日体OB（福岡） 13―11 山口ク

▽同準々決勝

西日本日体OB 23（6―7 8―7：5―3 1―3：2―0 1―2）22 千代田ク
全日体大 13（7―4 6―4）8 富山ク
桜丘会 26（12―1 14―1）2 富山商高OB
全教大 10（7―3 3―6）9 芝浦工大

▽同準決勝

全日体大 12（7―5 5―5）10 桜丘会
西日本日体OB 10（5―0 5―6）6 全教大

▽同3位決定戦

桜丘会 18（10―5 8―8）13 全教大

▽同決勝

全日体大 11（4―5 7―5）10 西日本日体OB

優勝メンバー

北川勇喜　渡辺慶寿　東嘉伸　梅田幹夫　斉藤一　松田徳之助　小林進　大西富男　山野圭三　長内和男　竹野奉昭　桑原勘佑　堀勤　小鳥居安彦

▽女子1回戦（3試合）

日体大（東京） 8―0 梅花学園（大阪）
愛知紡（愛知） 7―2 有磯高（富山）
高岡高（富山） 2―1 二階堂ク（東京）

▽同準決勝

日体大 10（4―0 6―1）1 比美ク（富山）
愛知紡 12（5―2 7―2）4 高岡商高

▽3位決定戦

比美ク 2（1―0 1―1）1 高岡商高

▽同決勝

愛知紡 10（3―1 7―2）3 日体大

優勝メンバー

瀬川晶子　滝本芳子　桑山春子　黒野政子　村山弘子　平川千代子　百瀬みさを　久保節子　伊藤民子　高城千鶴子　則武のぶ子

男子にも実業団登場

10回を迎えた全日本総合選手権は山口県下関市で開かれ、男子30、女子10と多数のチームが参加した。男子のなかには住友化学菊本（愛媛）宇部曹達（山口）の実業団2チームと自衛隊系から奈良航空自衛隊幹部候補生学校（奈良）の姿が見え話題となった。自衛隊系チームの全国大会出場は初めてだが、実業団は前年の国体（第12回・清水）で三菱レイョン（広島）が出ており2番目。住友化学菊本はこのあと全日本総合、国体（第13回から）の2大会に出場、現在まで連続出場という努力を示すことになる。関係者の熱意には敬服のほかはない。

さて、優勝は全日体大が準決勝（全教大）決勝（桜丘会）と苦しみながら地力を示して連勝（5回目）したが、その安定した試合ぶりと選手層を見て、当時だれが全日体大にとってこの大会のあと久しくその王座を失うことになると予想しただろう。桜丘会（愛知）は惜敗したものの、出場のたびに順位を一つずつあげるたくましさに賞賛の声が集まった。逆に西日本日体OB（福岡）からは鋭さが薄れていく感じだった。勝負の世界の掟（おきて）、盛衰の転変はハンドボール界も例外ではなかった。地元勢、高校現役勢が数多く登場したのも特色だった。

これは開催地山口県と隣接の福岡県、広島県球界の充実を示すもので、こうした例は過去に第1回（愛知）第6回（神奈川）第7回（兵庫）第8回（静岡）にもいえる。小倉工高OB（福岡）が全教大戦に善戦したのは一つの結晶といえよう。女子は愛知紡（愛知）が前年にもまさるチーム力を示して圧勝、名門明善ク（福岡）が日体大を破って続いたが、3位に高校現役の岩国商高（山口）がはいって注目された。

▼**第10回**（昭和33年8月19日～23日・山口県下関市総合グラウンドほか）

▽男子1回戦

徳山高OB（山口） 12―11 西南ク（福岡）
京都ク（京都） 17―9 岡山工高（岡山）
岩国工高（山口） 11―3 奈良高OB（奈良）
下関幡生工高OB（山口） 14―7 奈良航空自衛隊幹候校（奈良）
宇部工高OB（山口） 18―2 都留ク（山梨）
小倉工高OB（福岡） 17―6 四日市商高（三重）
全教大（東京） 20―4 旭陵ク（山口）
桜丘会（愛知） 40―7 下関西高（山口）
呉ク（広島） 15―6 福岡工高OB（福岡）
山口ク（山口） 20―15 住友化学菊本（愛媛）
全芝浦工大（東京） 21―7 山口大（山口）
高津ク（大阪） 20―8 済々黌高（熊本）
中大（東京） 14―7 宇部曹達（山口）

下関幡生工高（山口） 21―10 育英OB（奈良）

▽2回戦

全日体大（東京） 14―3 徳山高OB
京都ク 14―7 岩国工高
下関幡生工高OB 11―8 宇部工高OB
全教大 10―9 小倉工高OB
桜丘会 30―6 呉ク
全芝浦工大 15―11 山口ク
中大 13―7 高津ク
西日本日体OB（福岡） 26―5 下関幡生工高

▽準々決勝

全日体大 20（10―7 10―4）11 京都ク
全教大 17（10―4 7―4）8 下関幡生工高OB
桜丘会 20（12―11 8―8）19 全芝浦工大
西日本日体OB 17（9―6 8―5）11 中大

▽同準決勝

全日体大 16（4―4 5―5 … 3―3 4―1）13 全教大
桜丘会 15（6―3 9―6）9 西日本日体OB

▽同3位決定戦

西日本日体OB 12（2―3 10―3）6 全教大

▽同決勝

全日体大 19（9―9 10―8）17 桜丘会

優勝メンバー

新井節男　滝口澄夫　松田徳之助　溝口陽生　東嘉仲　梅田幹夫　大西富夫　山下勝司　竹野奉昭　桑原勘佑　井上祐人　北川勇喜　寺村新悦　豊島進太郎　清川守嗣

▽女子1回戦（2試合）

明善ク（福岡） 9―1 岸和田ク（大阪）
南筑高（福岡） 記録不明 栃木女高（栃木）

▽同2回戦

明善ク 10―3 日体大（東京）
今治西高OG（愛媛） 7―2 厚狭高（山口）
岩国商高（山口） 7―3 北摂ク（大阪）
愛知紡（愛知） 12―7 南筑高

▽同準決勝

明善ク 12（6―3 6―0）3 今治西高OG
愛知紡 17（11―1 6―6）7 岩国商高

▽3位決定戦

岩国商高 7（3―0 2―5 … 2―0）5 今治西高OG

▽同決勝

愛知紡 11（5―2 6―1）3 明善ク

優勝メンバー

百瀬みさを
則武のぶ子
滝本　芳子
桑山　春子
黒野　政子
瀬川　晶子
沢田　勝子
平川千代子
伊藤　民子
高城千鶴子
篠原タミ子

【以下次号】

ヌリタの “ハンドボール” MAT

このマークを守って
30年……………

新製品

ハンドボール練習マット
を加えて　ますます
前進をつづけています。

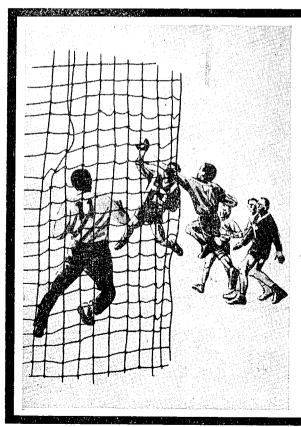
（マット テント 専問メーカー）

日本体育大学御用

資料呈

塗田商会

大阪市南区日本橋二丁目
TEL 641—1889・9641

信頼にこたえる《GTネット》

完全製品!!創業50年スポーツネット一途の道をたどり常に競技の中核としてお役に立っております。
完全製品の五つの条件、規格が正しく張り放し出来腐らない、強くて軽い、価格が安いを目標にプレーが最高である如く皆様と共に邁進します。

株式会社 ジィティ

本　社　大阪市南区東平野町3の36 電話(762)1525(代)
東京支店　東京都墨田区厩橋1の1 電話(623)7155(代)

三菱鉛筆(女)初優勝

男子は大崎電気2連勝

第4回東京都ハンドボール選手権大会は昨年11月28日から12月1日まで東京体育館で開かれた。一般男子は30、一般女子は7チームが参加、一般男子は大崎電気（埼玉）が決勝で芝浦工大（東京）を18—14で破り、昨年に次いで2連勝した。一般女子は三菱鉛筆（東京）が強豪大崎電気（埼玉）を5—4で破る殊勲をたて、初優勝した。高校男子は明星が3連勝、高校女子は桜水商が2連勝した。

◇中学女子決勝
深川五中 18（9—1、9—3）4 八王子・横山中

◇中学男子決勝
中野・中央中 16（6—4、6—8、2—2、2—1）15 深川四中

◇高校女子準決勝
桜水商 16（7—2、9—1）3 都立二商
佼成学園 9（4—1、5—3）4 小平

◇同決勝
桜水商 13（9—4、4—2）6 佼成学園

◇高校男子準決勝
明星 22（10—0、12—2）2 早大学院
中大付 10（4—2、6—5）7 神代

◇同決勝
明星 25（11—6、14—0）6 中大付

◇一般女子1回戦
大崎電気 27（18—2、9—1）3 日女体大
三菱鉛筆 8（4—2、4—4）6 東女体大
東京重機 不戦勝 レナウン

◇同準決勝
大崎電気 6（2—2、4—2）4 日体大
三菱鉛筆 8（5—3、3—3）6 東京重機

◇同決勝
三菱鉛筆 5（2—2、3—2）4 大崎電気

◇一般男子1回戦
全慶応 13（4—5、6—5、0—1、3—0）11 明大
東京教大 22（11—10、11—7）17 千代田印刷機
日体大ク 30（13—3、17—6）9 桂友ク
桜友会 22（8—11、14—10）21 法大
日大 17（11—5、6—7）12 早大学院ク
東大 13（6—3、7—6）9 法政工ク
芝浦工大 53（32—3、21—3）6 桑朋会
法友ク 18（7—6、11—4）10 明星大
芝浦ク 33（16—7、17—7）14 武蔵工大
日体大 不戦勝 安田生命
慶大 33（17—3、16—10）13 蜂山会
滴水会 29（15—3、14—3）6 国士館大
若木ク 16（6—4、10—10）14 上智大
順天大ク 34（20—3、14—7）10 理科大

◇同2回戦
大崎電気 19（11—7、8—5）12 全慶応
東京教大 16（8—8、8—6）14 日体大ク
桜友会 14（9—9、5—4）13 日大
芝浦工大 29（16—2、13—1）3 東大
法友ク 26（12—5、14—12）17 芝浦ク
日体大 20（12—4、8—11）15 慶大
滴水会 28（13—3、15—9）12 若木ク
中大 23（13—9、10—5）14 順天大ク

◇同準々決勝
大崎電気 20（9—5、11—5）10 東京教大
芝浦工大 36（15—3、21—7）10 桜友会
日体大 27（10—5、17—8）13 日体大
滴水会 17（6—4、11—3）7 中大

◇同準決勝
大崎電気 23（12—10、11—6）16 芝浦工大
日体大 26（12—6、14—8）14 滴水会

◇決勝
大崎電気 18（9—7、9—7）14 日体大

× × × ×

大会終了後、優秀選手男女各7人を表彰し、賞状、楯を授与した。

▽女子
GK 川崎 幸子（大崎電気）
FP 宇井 敬子（大崎電気）
鈴木 功子（大崎電気）
三井田梅枝（三菱鉛筆）
落合千鶴子（三菱鉛筆）
田井 稔乃（日体大）
北村 玲子（日体大）

▽男子
GK 福本 弘（大崎電気）
FP 北村 尚英（大崎電気）
西村 功（大崎電気）
竹野 奉昭（大崎電気）
近藤 信行（芝浦工大）
山田 透（芝浦工大）
大宮 泉（日体大）

地方だより

柱野中（男）優勝

◇山口県中学校体育大会ハンドボール競技（41年10月9－10日、山口大）

▼男子1回戦

北河内中天尾分校 21－8 萩一中

柱野中学チーム

大華中 19－5 湯田中
福川中 16－8 佐波中
下松中 10－8 桑山中

▽準々決勝

末武中 20－13 北河内中天尾分校
岐陽中 13－4 大華中
柱野中 24－7 福川中
日新中 11－10 下松中

▽準決勝

岐陽中 10－9 末武中
柱野中 19－9 日新中

▽決勝

柱野中 16－14 岐陽中

▼女子1回戦

柱野中 11－6 大華中

▽準決勝

北河内中天尾分校 12－10 住吉中
岐陽中 19－6 柱野中

▽決勝

岐陽中 18－7 北河内中天尾分校

麻生高、男女とも優勝

◇第16回茨城県総合選手権大会（41年11月19－20日、土浦一高）

▼中学男子1回戦

新治中 21－7 波崎二B
麻生一A 13－12 桜丘中B
波崎二A 13－10 多賀中
麻生一B 11－10 赤塚中A

▽準々決勝

新治中 28－22 千代田A
赤塚中B 21－7 麻生一A
千代田B 18－15 波崎二A
桜丘中A 21－2 麻生一B

▽準決勝

新治中 16－10 赤塚中B
桜丘中A 24－9 千代田B

▽決勝

桜丘中A 27－13 新治中

▼中学女子1回戦

新治中 13－3 麻生一B
波崎二A 7－7 桜丘中B（抽選勝ち）
麻生一A 8－3 結城中
桜丘中A 13－2 波崎二B

▽準決勝

波崎二A 10－9 新治中
麻生一A 8－5 桜丘中A

▽決勝

麻生一A 10－5 波崎二A

▼男子1回戦

竜ケ崎一高A 13－12 水戸一高A
土浦工高A 21－19 桜水ク
勝田工高 26－4 鉾田一高
自衛隊勝田A 15－11 石岡一高B
水海道一高 17－11 水戸工高B
原研 19－9 磯原高
竜ケ崎一高B 11－7 土浦一高
茨苑ク 20－19 笠間高
自衛隊勝田B 15－13 八郷高
土浦工高B 14－13 水戸工高A
下館一高B 17－11 水戸一高B
石岡一高A 16－4 真壁高

▽2回戦

茨城大 26－6 竜ケ崎一高A
勝田工高 17－11 土浦工高A
自衛隊勝田A 30－7 下館一高A
原研 17－10 水海道一高
日立製作 13－7 竜ケ崎一高B
茨苑ク 24－12 自衛隊勝田B
土浦工高B 20－12 下館一高B
麻生高 17－6 石岡一高A

▽準々決勝

茨城大 20－11 勝田工高
自衛隊勝田A 23－12 原研
茨苑ク 16－6 日立製作
麻生高 14－9 土浦工高B

▽準決勝

自衛隊勝田A 13－8 茨城大
麻生高 13－11 茨苑ク

▽決勝

麻生高 19（9－7、10－7）14 自衛隊勝田A

◇女子1回戦

水戸二高A 12－9 八郷高
石岡二高B 7－2 鉾田二高
水戸二高B 11－9 太田二高
笠間高 6－1 日立二高

▽準々決勝

水戸二高A 7－6 水海道二高
石岡二高B 11－5 西峰ク
石岡二高A 13－8 水戸二高B
麻生高 23－3 笠間高

▽準決勝

水戸二高A 12－6 石岡二高B
麻生高 13－6 石岡二高A

▽決勝
麻生高 21（11—1, 10—5）6 水戸二高A

大阪イーグルス優勝

◇第5回西日本一般男子選手権大会（41年11月26—27日、京都市体育館）

▽1回戦
伏見ク（京都）20（10—5, 10—3）8 丸善石油（和歌山）
奈良ク（奈良）22（13—8, 9—6）14 菊松会（広島）
スワロー兵庫（兵庫）22（8—12, 14—6）18 高松一高OB（香川）

▽準々決勝
武田薬品光工場（山口）28（13—9, 15—7）16 京都教員ク（京都）
大阪イーグルス（大阪）27（14—4, 13—7）11 伏見ク
奈良ク 23（13—9, 10—8）17 大分ク（大分）
スワロー兵庫 26（14—9, 12—11）20 京都市役所（京都）

▽準決勝
大阪イーグルス 15（8—8, 7—6）14 奈良ク
スワロー兵庫 23（12—7, 11—9）16 武田薬品光工場

▽決勝
大阪イーグルス 15（4—8, 11—4）12 スワロー兵庫

本田技研Aが優勝

◇第17回三重県総合ハンドボール選手権大会兼第1回日沖杯争奪ハンドボール大会（日沖修氏追悼試合）（41年11月27日、津高）

▼女子1回戦
菰野高 7—4 四日市商高A
松阪女ク 16—0 津女高A
暁高 6—4 四日市高
田村紡A、不戦勝 上野商高
白山高 6—5 四日市商高B
松阪女高 11—0 津高
田村紡B 12—6 津女高B

▽同2回戦
田村紡A 64—1 菰野高
松阪女ク 9—6 暁高
白山高 12—10 松阪女高
田村紡B 33—9 亀山高

▽同準決勝
田村紡A 31（14—3, 17—0）3 松阪女ク
田村紡B 21（13—1, 8—2）3 白山高

▽同決勝
田村紡A 29（15—2, 14—1）3 田村紡B

▽3位決定戦
松阪女ク 10（6—1, 4—3）4 白山高

▼男子1回戦
愛球会 23—15 三重大
四日市工高B 25—5 鈴鹿工専
高田高 15—12 亀山高
鵜森ク 26—13 修球会
三重教員団（抽選勝ち）20—20 津工高OB
大協石油 21—10 津工高

▽同2回戦
愛球会 18—14 津高
四日市商高B 9—5 四日市工高C
四日市工高B 20—7 三重県立大
本田技研A 30—1 亀山高A
四日市工高A 17—15 鵜森ク
本田技研B 52—4 高田高
三重教員団 不戦勝 四日市商高OB

▽同準々決勝
愛球会 20—9 四日市商高B
本田技研A 17—4 四日市工高B
四日市工高A 21—13 本田技研B
三重教員団 31—17 大協石油

▽同準決勝
本田技研A 23（9—5, 14—7）12 愛球会
四日市工高A 30（16—13, 14—11）24 三重教員団

▽同決勝
本田技研A 14（12—5, 2—7）12 四日市工高A

▽3位決定戦
愛球会 35（16—9, 19—6）15 三重教員

涌谷高優勝

◇宮城県高校新人大会（41年11月、仙台）

▲男子準決勝
仙台一 12—8 仙台高
古川工 20—7 仙台二

▽同決勝
仙台一 8（3—2, 5—4）6 古川工
仙台一は2年ぶり5回目の優勝

▼女子準決勝
古川女 11—3 祇園寺
涌谷 11—2 仙台二女

▽同決勝
涌谷 19（10—5, 9—3）7 古川女
涌谷は17年連続17回目の優勝。

西南学院3連勝

◇第16回九州地区大会体育大会（11月26—27日、鹿児島大）

▽A組1回戦
九大 11—10 熊本商大
宮崎大 20—14 福岡工大

▽A組決勝
九大 16—10 宮崎大

▽B組（リーグ）
鹿児島大 18—14 九州産大
西南学院 17—9 鹿児島大
西南学院 14—11 九州産大

▽決勝
西南学院 18（10—7, 8—6）13 九州産大
西南学院は三連勝、通産5度目の優勝。

◇第7回愛知学生選手権（12月・名古屋）

▽同決勝
中京大A 32（13—1, 19—2）3 名大B
中京大は7連勝

▽女子決勝
中京大 7（5—0, 2—4）4 中京女大
中京大は初優勝

編集後記

○…昨年12月の全日本選抜選手権大会で男子は全立大、女子は大崎電気が優勝した。おめでとう。両チームとも8月の全日本総合選手権大会にもタイトルを取っているから、41年度のナンバーワン・チームといっていい。ことしはこの全立大、大崎電気を破るチームが出てほしい。それがハンドボールの発展ともなる。年賀状のなかに、田村紡の田村正衛社長が「ことしは大崎電気を倒して全日本のタイトルを握る」と書いてあった。大いに期待しています。

○…1月号を休刊したので、各高校チームから寄せられた「学園だより」が編集子の手元に山となっている。一度に掲載できないので、到着順に掲載しますからあしからず……。

○…2月下旬に開かれる日本協会全国評議員で新しい会長、理事長が決まると思う。1972年のミュンヘン・オリンピクを目ざして大同団結し、スタートを切ってもらいたい。

○…全日本選抜選手権のぼう大な原稿を杉山茂君（NHK）がまとめてくれた。杉山君の協力には日本協会あげて感謝しています。割り付けをしている佐内洋治君にも感謝します。

（ふぐ）

ダイヤボールだけの書き味

スッキリとさえた書き味——
ダイヤボールだけのものです
ダイヤモンドの次に硬い合金
タングステンカーバイドのボールと
三菱独自のインクとのハーモニによって
はじめてこのさえた筆跡が生まれます

S—300
¥ 300

ダイヤボール

三菱鉛筆株式会社

日本ハンドボール協会編
ハンドボール 第四十号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十二年一月二十五日印刷 昭和四十二年二月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 鈴木達雄
定価百五十円